

A black and white photograph of a river valley. In the background, there are several layers of mountains under a cloudy sky. A river flows through the valley, with a small boat visible on the water. The foreground is filled with dense, leafy vegetation, possibly a forest or a garden, which frames the scene. The overall mood is serene and natural.

KUROSHIO

March 2020 Volume 45

鹿児島県立短期大学
地域研究所

■ 巻頭言					
県短のあり方を考えた	学長	野呂 忠秀			1
■ 退任の挨拶					
退任挨拶	学長	野呂 忠秀			2
退任の挨拶	商経学科	内田 昌廣			2
■ 新任の挨拶					
新任の挨拶	文学科	ガルシア・アロヨホルヘ			3
新任の挨拶	生活科学科	古川那由太			3
■ 留学生手記					
優しい留学生生活	南京農業大学	4年	高 嘉		4
暖かくて爽やかな都市，鹿児島島の留学生生活	南京農業大学	4年	桑 瑞傑		5
留学体験	南京農業大学	4年	李 娉		6
■ 海外研修報告					
2019年度ハワイ研修を振り返って	文学科		土持かおり		7
ハワイ研修を通して	商経学科	1年	上原 あみ		8
ハワイ研修で学んだこと	文学科	1年	下南壮太郎		8
異文化コミュニケーション（中国語）	文学科		楊 虹・木戸 裕子		10
不中国人，中国的人	商経学科	1年	橋元 優		11
知らない人に思ったこと何でも言えますか？	文学科	1年	諸藤 樹蘭		12
■ 生涯学習の取り組み					
2019年度鹿児島県立短期大学公開講座					
「これからビジネスはどうなるのか—情報化・グローバル化・地域活性化—」	文学科		遠峯伸一郎		13
2019年度鹿児島県立短期大学奄美サテライト講座	生活科学科		坂上ちえ子		15
2019年度伊敷公民館講座生き生きシニア大学	文学科		遠峯伸一郎		17
■ 地域研究報告 2019年度プロジェクト研究					
<共同プロジェクト>					
中小企業における会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究	商経学科		岡村 雄輝		19
	商経学科		宗田 健一		
	鹿児島国際大学		櫛部 幸子		
<個人プロジェクト>					
奄美大島・泥染めによる美術作品の制作	生活科学科		北 一浩		19
北海道における障害児の高校進学	商経学科		田口 康明		20
原耕の南洋漁場開拓事業の全国への影響	商経学科		福田 忠弘		20
■ 研究・社会活動報告					
2019年度鹿児島県立短期大学教員研究社会活動実績一覧					21

(表紙写真：野呂 忠秀 学長 提供)

■ 巻頭言

県短のあり方を考えた 学長 野呂 忠秀

県短では、学長が変わる度に「大学改革計画」が作られてきた。新任学長たちは、教育組織に改善の余地を感じたのである。しかしその計画が実現したことはなく、特に4大化や学科見直しは困難を極めた。4年前に学長に就任した私も、県短の問題点と将来計画を議論し改革につなげることが、県民に対する落下傘学長の責務と考えた。これが2017年7月に「県短のあり方を考える会（考える会）」を提案した由縁である。

しかし、「考える会」の設立は多難であった。今度の学長もまた大学改革を言い出したのか？「考える会」のメンバーはどのように決めるのか？既存の委員会との関係は？「考える会」の権限は？等々、「考える会」設立への否定的意見が続出した。

悪戦苦闘の末、自己評価・将来構想委員会の作業部会として「考える会」を2017年10月教授会に提案し認めていただいた。

全国的にも公立短大の数が激減し、法人化していない県立短期大学は本学だけ。在学生や同窓会、高校長会からも、県短の将来を問われていた。「考える会」の委員公募に賛同して集まってくくださった教員は、准教授以下の方々が多人数で、学長室で半年かけての議論を重ねた。

その結果は、報告書『鹿児島県立短期大学のあり方を考えるー鹿児島県における県立大学の役割と将来ー』21頁（2018.7.12）にまとまった。この報告書には、荒削りではあるが、本学が今後歩むべき方向性を示したものであった。

しかし、諸般の事情により教授会に提出する前の複数の会議で賛同が得られず、『幻の県短改革案』として消え去ることになったのである。お忙し中、学長室に集まって県短の来し方行く末を熱く語ってくださった諸先生には、学長は自らの非力を恥じるばかりである。今にして思えば、多少の反対意見が出ることは覚悟の上で、教授会提案を強行しても良かったのではないかと、「考える会」の目指していた方向性は、鹿児島県の高等教育の歩む道としては間違っていないかと、と考えている。

この『幻の県短改革案』を教授会に出すべきかどうかについての合意形成に奔走していた頃、期を同じくして県短三役主導で別の改革案「鹿児島県立短期大学における国際化に対応する教

育および鹿児島県の魅力を活かす教育について」（四役会、平成30年7月、17頁）がわずか2週間で作られ、考える会が作った報告書（『幻の県短改革案』）に代わり2018年9月の臨時教授会に提議承認された。この四役会の報告書は、県短が県議会から問われている「国際貢献」と「地域貢献」を中心に執筆されたものであり、教授会の承認を得て設置者に報告された。

『幻の県短改革案』がボツになったことで、その後の教授会は平穏であった。学内の安全保障にとっては良かったのかも知れない。

以下は「幻の報告書」で述べた改革案骨子です。

- (1) 鹿児島県の自然環境や文化を発展的に継承する教育研究を行うこと（鹿児島学展開）。
- (2) 鹿児島県の経済的な発展を支えるための研究と教育を行うこと（経済産業支援）。
- (3) 鹿児島県における異文化交流を支えるための教育と研究を行うこと（国際交流支援）。
- (4) 鹿児島県内の研究者に知的な交流の場としてのサロンを提供（在野研究者のサロン設立）。
- (5) 鹿児島県民の経験を後世に残すための場（アーカイブス）を提供する（県民アーカイブス設立）。
- (6) 鹿児島県民が必要に応じてどこにいても学べる生涯学習の場を提供すること（eLearning 社会人教育）。
- (7) 四大化については、県短は短大教育を継続するが、鹿児島県にとって別の公立4大も必要（公立4年制大学構想検討）

これらは考える会の作った県短改革案の骨子にすぎないし、実現するための工程表はまだ未完である。しかし、遠くにこの方向性を見据えた大学改革の議論は本学にとって必要ではなからうか。

■ 退任の挨拶

退任挨拶

第11代学長 野呂 忠秀

学長を拝命してから早くも4年が過ぎました。改めてこの間に成し得なかったことの多さと、我が身の非力を恥じる者です。

振り返れば、県短を最後に大学教員歴41年。これからは、仕事人間を辞め、残りの人生は好きなことをして笑って過ごします。顕微鏡一つを武器に、在野の研究者に徹するつもりです。ついでに心を入れ替えて、家族サービスも…できるかな？

さて県短を辞するにあたり、大学の「ガバナンス（管理運営）」について一言。国公立大学で法人化が始まったのは20年前。賛否両論のあった法人化でしたが、今思えば大学にとってはメリットも大きく社会的な評価も得たと思われる。

学長と理事会は、大学の進むべき目標と運営計画を明確に立案し（もちろん教授会をないがしろにしないが）、外部委員も加えた役員会で方向性を決定し、学内資源（ヒトとお金）を有効に活用するとともに、スピード感を持った大学運営を行うことが、法人化した大学では定着しています。今にして思えば、県短でも学長の腕力と度胸があれば、このような大学運営が出来たかもしれないのですが如何せん、私の器では無理でした。

4年前は17校あった公立短期大学もこの4月からは13校になり、やがて10校程度になると予想されます。その中で、法人化していない県立短大はわが県短だけです。これからの大学では、学長がトップマネジメントを発揮し大学を運営できるガバナンスの仕組みに変えないと、社会のニーズについていくことはできないでしょう。

そのためには、法人化した大学と同じように中期計画・中期目標を執行部が立案し、各委員会で実施するガバナンス制度の構築が不可欠の要素です。しかし、ガバナンス制度を変えれば大学が良くなるものではありません。結局は、自らを良くしようという大学人特有的お人好しと、お節な文化が学内で育まれるかどうかにかかっています。

短い4年間ですが、県短で働く教職員や学生、さらには同窓会や県庁関係者にはお世話になりました。この4月から本学が新たな学長の下で発展することを祈念します。

一足先の退場をお許しください！

退任の挨拶

商経学科 内田 昌廣

2009年4月の着任以来11年間に亘って、真面目で意欲旺盛な学生とアットホームな雰囲気の中で温かく親切な教職員の方々によって、充実した教員生活を過ごすことができましたこと厚くお礼申し上げます。畑違いの私が曲がりなりにも大学教員づらして仕事に取り組むことができましたのも、県立短期大学の学生のみならず、学長はじめ教職員の方々のお陰であったと深く深く感謝しております。

振り返れば、序盤の3年間は学生への講義・ゼミ指導とも試行錯誤の連続でした。ビジネスの世界で専門知識を備えた相手とばかり付き合ってきたのとは異なり、社会経験のない学生に講義する内容や伝え方（単なる知識としてではなく、リアルな実社会の動きとしての知識を如何に興味深く伝えるか）に苦労しました。4年目からはようやく勘どころを掴み、ほんの少しだけですが教員らしく（？）なれた気がしました。在職中の後半は、思いがけず委員長や管理職に選出されましたが、先生方や職員の方々の温かいサポートのお陰で任を終えることができました。些細な質問にも嫌な顔一つせず丁寧にご指導頂いたことは数え切れず、その一つ一つに頭が下がる思いでした。研究面の貢献は何も記すことはありません。研究一筋たたき上げの諸先生方とは蓄積量が違いすぎると改めて感じました。遅きに失したとは言え、退職後は、現職の先生方に追いつくべく専門分野の書籍・論文を読み続けていきたいとのモチベーションが今になって高まっています。

赴任前の私にとってはインドが第二の故郷でしたが、今や鹿児島が正真正銘第二の故郷になりました。在職中に関わった学生のみならず教職員の方々との交流の全てが、忘れ得ぬ一生の思い出です。最後に、私に「一身にして二生を経るが如し」（福沢諭吉）の時間を与えて頂きました県立短期大学、そして学長はじめ教職員の方々、卒業生・在学生のみなさんに改めて心からお礼を申し上げます。鹿児島県立短期大学の益々のご発展と、皆様のご健勝・ご活躍を心からお祈りいたします。本当にありがとうございました。

■ 新任の挨拶

新任の挨拶 文学科 ガルシア・アロヨホルヘ

2019年4月に文学科英語英文学専攻ガルシア・アロヨホルヘと申します。どうぞよろしくお願ひ致します。

子供の頃から人文科学に情熱を傾けてきており、言語の機能については絶えず好奇心がありました。さらに、これらのトピックに関する知識を他の人に伝えるのが大好きです。これらの理由により、私は最初にマドリッド・コンプルテンス大学（スペイン）で歴史学の学位を勉強しました。卒業後同じ大学で外国語としてスペイン語を教えるという修士課程を修了しました。そのあと、鹿児島大学大学院（博士課程、アメリカ文学）に在籍しており、博士課程においては単位取得満期を休学中です（博士論文を作成するために）。

歴史学の研究は、現在、少し停滞おりますが、私の専門はスペインとヨーロッパ近世、特にその時代の物質文化（服装）です。また、日本とスペイン外交関係において研究も行っていました。

スペイン語教育に関して、授業でスペインサッカーをどのように使用できるかにおいて研究しました。

現在、私の主な研究分野はアメリカ文学です。この研究は、ハーマン・メルヴィルとアーネスト・ヘミングウェイの作品におけるスペインとその帝国のイメージに焦点当てています。

メルヴィルは、ヘミングウェイとは異なり、ヒスパニック世界の要素を作品を取り入れなかったように思えるかもしれませんが、実は、メルヴィルがスペインとその帝国の周りに偉大な象徴主義を築いたということでしょう。私の意図は、メルヴィルがどのようなこの象徴性（ほとんどの場合、スペインの帝国専制、その奴隷制度に基づいており、もちろん異端審問などの宗教的な側面に基づいています）を構築し、彼の作品にどのような意味をもたせたかを示すことです。このようにして、これまでのところほとんど研究されていないメルヴィリアンの想像力の超国家主義的の視点を提供することです。

ヘミングウェイに関しては、私の主な目的が彼の作品の中でスペインのことはどの程度真実であるか、そして、彼の作品はどのいうにスペインで受けられたかを示すことです。

新任の挨拶 生活科学科 古川 那由太

2019年10月に生活科学科に着任した古川那由太と申します。前職は新潟薬科大学の助教を務めておりました。至らぬ点もあるかと存じますが、どうぞ宜しくお願ひ致します。

私はこれまで「たんぱく質」について研究してまいりました。たんぱく質はたった20種類のアミノ酸が100個以上重合した高分子化合物ですが、その単純な構成単位からは想像できないほど機能は多岐にわたります。この機能の多様性はたんぱく質のもつ複雑な立体構造によって生み出されており、たとえわずかな立体構造の変化であってもたんぱく質の機能を喪失させることがあります。原子1つ1つの位置まで正確に計算され尽くされているたんぱく質を見ると、たんぱく質はまるで人智を超えた存在によって設計された機械のように思えてこないでしょうか。私はこの世界最小の高性能な精密機械の魅力に取り憑かれて以来、たんぱく質の機能を生み出す構造的要因の解明に努めてまいりました。

例えば水虫の原因菌である白癬菌は、多くの生物が分解できない皮膚のケラチンを分解して主要な栄養源とするため、ケラチン分解を抑制すれば白癬菌の増殖を抑制できると考えられています。そこで私は白癬菌のケラチン分解酵素がケラチン分解能の獲得に至った構造的要因を明らかにするとともに、ケラチン分解酵素のみを強力に阻害する薬剤を探索して水虫の特効薬開発を目指しました。この研究は現在進行中ですが、本学では新たに「食物由来の抗微生物ペプチド」に関する研究にも挑戦しようと考えています。ペプチドはたんぱく質よりもアミノ酸残基数が少ない高分子です。抗微生物ペプチドは従来の抗生物質が効かない薬剤耐性菌に対しても効果を発揮することから、新規治療薬として注目を集めております。また、医療分野のみならず、食品添加物や衛生用品等への応用も期待できるため、現在世界中で精力的に研究が進められています。私は鹿児島県の農産物や料理に含まれる抗微生物ペプチドの研究を通して食品の機能性向上および地域の発展に貢献する所存です。

■ 留学生手記

優しい留学生活

南京農業大学4年 高 嘉 (コウ・カ)

光陰矢の如し、月日の経つのは早いです。私が留学生として今年の4月に日本に来てから、もう3か月余りが経ちました。外国での生活を始めたばかりのころはまだ慣れなくて、その時は非常に苦しく感じることもありましたが、今はだんだんこの優しい生活に慣れてきました。

振り返ってみると、この半年間は私の人生にとって、かけがえのない貴重な宝です。この半年間の日本留学は私に愛と理解の大切さを教えてくれました。鹿児島空港に着いた時は電話のかけ方もわからず、空港の係の人が代わりに電話をかけ、地図もくれたおかげで、やっとのことで鹿児島中央駅に到着しました。初めの一か月間ぐらいは私たちパンダ3人組の日本留学生生活は失敗だけですが、毎日毎日が楽しくて充実して過ごしました。4月には一年生と一緒に入学式に参加したり、青少年研修センターに泊りがけで遊びに行ったり、授業が始まった時は私は3年前の新入生のような気分になっていました。5月には桑さんと李さんと一緒に指宿市に旅行したり、楊先生や木戸先生と一緒に着物教室に行ったり、体育祭にも参加しました。たくさんすばらしい思い出があります。

もっとも重要なのは、以前の大学生活では全く触れることのなかった世界を知ったことです。鹿児島県立短期大学では、日本文化を中心に幅広く奥深い知識を身につけ、興味のある中国文化について研究を深め、卒業研究では論文の書き方やプレゼンテーションについての知識を習得しました。スポーツ実習ではテニスやバドミントン、卓球を学び、勉強しながら運動をしてリラックスすることができます。調理学実習は一番美味しかった授業だと思います。情報リテラシーではパソコンのいろいろな応用力を身につけられます。しかし、私にとって一番楽しかった授業は書道です。ここは日本だからもちろん仮名を書きますし、はじめて中国の隷書も書きました。書道の先生はいつも学生にお茶をご馳走してくれました。とても面白かったです。

この半年間の留学は本当にすばらしい体験で、私の物事に対する考え方、生活態度や将来の生き方などのあらゆる方面において大きな影響を与えてくれました。特に私は今回の留学で初めて、普段生活し慣れ親しんできた土地を離れて暮らしたので、生活の些細なひとこまにさえ生

活の難しさを感じました。実は、私は日本に来る前は料理が全くできませんでしたが、今はスーパーに行って安い野菜や果物などの材料を買って、家で3人一緒に料理を作っています。最初はごみの分別も難しかったです。今ではごみの分別回収といういい習慣を身につけました。それから、毎朝隣人とのあいさつ、授業後の先生とのあいさつなど、さまざまな場面で日本人らしい丁寧な言葉づかいや、日本人の優しさを知らされました。

半年間の留学生活は短いですが、私は可愛い日本の女の子と友達になり、先輩からいろいろな経験をさせてもらったり、助けてもらったりしました。それだけでなく、学長は私たちを鹿児島大学につれて行って図書館を案内してくれました。柳田先生はいつもファミレスでピザや飲み物をご馳走してくれるなど、私たちの生活を気かけ、美術館や県立図書館にも案内してくれました。私と桑さんの自転車が壊れた時、李さんが自転車で転んで怪我した時、土肥先生にいろいろと面倒を見てもらいました。

私は日本に来てから、日本の文化、経済、社会、そして人々の風俗習慣などを理解しました。もっと多くのことを自分で勉強するつもりですが、どれも私にとって大切な経験です。もう7月になり、帰国が近づいてきました。鹿児島島の全てのもとの離れがたいです。半年間の留学生活はそろそろ終了となりますが、私が日本で学び、そして感じたこと、ひとつひとつのよい思い出を忘れずに、この留学での経験を次のステップとして役立てたいと思います。私は自分を信じます。私の未来がもっとよくなるよう、これからも頑張ります。



暖かくて爽やかな都市、鹿児島島の留学生活 南京農業大学4年 桑 瑞傑（ソウ・ズイケツ）

音楽を聞きながら自転車に乗ったり、コケの生えた木の下を跳び回ったり、甲突川の水を見たり、4月の桜の花びらを追いかけたり、桜島に向かってランニングしたりすると、海風と青空の涼しげな鹿児島島が感じられます。ここでの生活は大学生活の中で最も自由で楽しい時間です。私が鹿児島県立短期大学に交換留学生として来ることができたのは、人生の中で価値のある選択だったと思います。

記憶に最も深く残っているのは、ここでの暖かい人々です。小泉八雲が日本人についてこう書いています。「甘い微笑は夢の国に来たようだ。」確かにそうだと思います。日本に来たばかりの頃はまだ慣れず、量も料理も中国とは大きく異なります。生活していて言葉が通じない状況に遭遇したり、勉強していて日本語資料の原本を見つけられなかったり、どうすればいいのかわからないことがよくあります。しかし、先生たちが優しく助けてくれるので、心配や不慣れなことは徐々に消えていき、鹿児島島の生活がだんだん好きになりました。

来た初日、先生たちが車で迎えにきてくれたり、おいしい日本の飲み物をくれたりしたことは、懐かしい思い出になっています。最初の食事は先生が私たちにごちそうしてくれました。入学後、3人の留学生のために歓迎式を開いてくれました。学長は私たちの日本語のスピーチを聞いてとても喜んでくれて、自ら車で私達を連れて鹿児島島大学と図書館を案内してくれました。途中の街並みや建築について説明してくれて、県庁では展望所から海を眺めました。海洋学がご専門の学長が、自ら桜島火山の特徴を説明してくれました。このような歓迎を受けて、とてもありがたいと思いました。

ある日のこと、私がランニングに行こうとしてドアを開けてみると、ドアノブに何かがついていました。中には私が探していた『怪談』の資料のコピーのほか、コーヒーやポテトチップスなどのお菓子も入っています。先週の日曜日に柳田先生が私の研究テーマを聞いて、今日わざわざ資料を届けてくれたのです。どうやら私はチャイムの音に気づかなかっただけで、先生は荷物をドアノブに掛けて帰ってしまったのです。先生のお心づかいを思うと、私はたいへん感動し、申し訳なく思いました。心を込めて論文を書いて、親切な先生に恩返ししたいです。

県短の先生だけでなく、アルバイト先のコンビニのTさんも優しくて、いつもお世話になっていま

す。ある時、私はお客様にコーヒーを間違えて出したのですが、彼女は私を叱らず、するべきことを注意してくれました。私が店の仕事を覚えるにつれて、彼女はいつも他の社員に私のことを、留学生だけども賢いと言ってくれます。Tさんはお店のお弁当やお菓子や唐揚げなどの軽食を私にプレゼントしてくれました。私が「いつ給料が出るのですか」と質問した時、彼女は私の無邪気さを大きな声で笑って、それから楽しそうにカレンダーを示して教えてくれました。Tさんはお母さんのように世話をしてくれるので、母と同じ45歳ぐらいかと思ってましたが、来年60歳になると知って驚きました。今年の誕生日を一緒に過ごすことができたし、来年も会いたいと思っています。

鹿児島の人々は、心の温かさを感じさせてくれました。鹿児島島の風景、たとえば火山、海風、川など、住んでみて爽やかに感じます。好きなランニングをしながら、街を走り、丘を登り、ヤシの木を見ました。野鳥は語りかけ清流の小鱼は笑顔を見せてくれました。人と大自然が仲良く一体になっている生活には感動します。

学長が言ったように、鹿児島島は住みやすいという印象があります。私は毎日この言葉を実感しています。路地裏の小さな別荘を見て私はよく想像します。もし私の家族6人がここにいたとしたらどのような光景だろうかと。弟や妹も家で賑やかに遊べます。中国の高層ビルよりもこの路地裏の低い建物が好きです。半年間の留学生活が過ぎるのは早いです。帰国後は日本経済を研究し、またいつかここに戻ってくるのを楽しみにしています。

いつか鹿児島島で再び桜島の火山の海辺の緑の道を走りたいです。天と地の大きさを感じつつ、雲が揺れ、心の中に限りなく希望と美しさが広がります。



留学体験 南京農業大学 4年 李 娉 (リ・ヘイ)

2019年3月26日、交換留学生として初めて日本に足を踏み入れました。日本語を2年間勉強して文化の面からはある程度理解していましたが、現代日本の生活を体験するのは全くの初めてです。興奮、好奇心、心細さが鹿児島空港に着いた時の最初の感情でした。

しかし、先生方と学生たちはとても親切で、心から感謝しています。彼らのおかげで異郷であることを意識しなくなりました。西元さんと福井さんは日本に来て最初にできた友達です。彼女たちは私たちに近辺を案内してくれました。また、授業や生活でたくさん助けてくれました。知らない国に来て新しい生活を始めた私たちにとっては、本当に助かりました。日本に来てよかったと思っています。

私は湖南省の出身なので、海を見たことがありません。4月6日に桑さん、高さんと一緒に鹿児島水族館に行きました。日本は海に囲まれた国だけあって、海洋生物の種類は非常に多いです。石のような魚がいて、目を閉じたまま動かない時は全く生きものらしくない。本当に不思議でした。海もきれい。海を見て、海風に吹かれて、気持ちがとてもよかったです。

新入生交歓会は1年生同士で交流する機会です。日本語学習者にとっても、良い鍛錬の機会です。残念ながら、私は気が弱くてあまり話をしませんでした。でも楽しかったです。友達もできました。日本でピクニックに行くのは初めてでした。みんなと一緒にカレーライスを作って、とても満足しました。結束は力であり、ピクニックでもアウトドアスポーツでも、チーム全員の努力が必要でした。チームワークの重要性がわかりました。

5月2日、友達と指宿に行き、日本の最南端で郷土料理を食べて、砂蒸しをして、鹿児島の文化や風土を感じて、違う生活を体験できました。

5月11日、木戸先生と楊先生の引率で、はじめて着物の着付けを体験しました。着物は本当にきれいですが、着方が難しいです。着付けの先生が2度教えてくれてやっと覚えましたが、今は忘れてしまいそうです。和服は日本を代表するものの一つであり、和服文化を学ぶことも日本文化を知る重要な方法です。

5月18日、鹿児島市立美術館に行き、絵の展覧会を見ました。とても印象的な絵がありまし

た。この絵の上半分は日本画ですが、下半分は中国画です。両国の文化の違いを直感的に見られます。どちらの部分もとてもきれいでした。

令和元年度の鹿児島県立短期大学公開講座に参加しました。聞き取れなかったところはたくさんありましたが、役に立つような気がします。知識を身につけ、聞く力を鍛えることができると思います。

この前うっかり自転車から落ちてしまいました。この時は先生方と友達にいろいろお世話になって、本当にありがとうございました。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

日本に来て、たくさんのことを学びました。SRTプロジェクト(Student Research Tuning Project)を完成し、文献調査もしました。この二つのことを完成させるには、いずれも大量の文献や資料を読まなければならないです。中国では、日本語の原文の資料を探すのは難しいです。幸い私は日本にいます。日本語の文献を読むことで、私の読むスピードも速くなり、新しい単語もたくさん覚え、たくさんの知識を得ました。日本語の勉強に対する熱意も高まります。ゼミもおもしろいです。ゼミでは卒業論文についての多くの知識を身につけました。これは今後、卒論を書く時に非常に役立つと思います。

光陰矢のごとし。日本に来てから3ヶ月以上経ちました。自分の話す能力はまだそれほど向上していませんが、読解力も聞く力も大きく向上しています。これらは日本語能力試験N1受験において大きく役立ちました。7月7日、私は鹿児島大学で日本語能力試験を受けて、合格したと確信しました。実は多くの日本語学習者はリスニング試験の部分で失点することが多いです。中国で私たちが普段聞くのは中国語で、日本語のリスニング訓練をあまりしてこなかったため、リスニング面で弱いと思います。言語をマスターするには、やはり現地で学ぶことが大切です。

一学期はもうすぐ終わりです。来学期も引き続き努力しよう。



■ 海外研修報告

2019年度ハワイ研修を振り返って 文学科 土持 かおり

2019年度異文化コミュニケーション（英語）の概要は以下の通りである。

- ・ 期 間：2019年9月4日（水）～9月17日（火）
- ・ 研 修 先：ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ
University of Hawaii,
Kapi 'olani Community College
- ・ 参加学生：計31名
文学科日本語日本文学専攻1年1名
文学科英語英文学専攻1年5名
生活科学科食物栄養専攻1年4名
生活科学科生活科学専攻1年7名
商経学科経済専攻1年4名
商経学科経営情報専攻1年10名
- ・ 引 率 者：土持かおり
(文学科英語英文学専攻助教),
岡村俊彦 (商経学科教授)

本年度は、全日程14日間（うち8日間の語学・文化研修）のプログラムを実施し、31名（女性28名、男性3名）が参加した。今回初の試みとして、1回目の研修ガイダンスを入学式当日に実施したが、学生だけでなく予想以上に多くの保護者の方が参加された。研修について保護者が直接説明を聞いた上で学生の研修参加は理想的ではないかと私自身感じており、可能であれば継続が望まれるところである。

昨年同様、KCC プログラムコーディネーターの佐藤さをり氏のサポートとご協力により、こちらの引率者側の希望等も取り入れてもらいながら語学研修及びハワイ文化体験という内容の深いプログラムを計画・実施して頂けた。午前中が英語クラス、午後がハワイ文化関連のワークショップや施設訪問等という流れであった。授業効果を上げるため、英語研修はレベル別2クラスとしてもらい、1時間目と2時間目は講師が交替する2種類の英語クラスであったが、講師の個性に満ちた充実した内容であり学生に大変好評であった。特に人気があった授業活動は、KCC 構内やファーマーズ・マーケットでのインタビュー活動であった。日本の授業では体験できない、実際に英語を使つてのインタビューということで、英語で伝えることと英語を聞き取ることの難しさと苦闘しながらも達成感を味わうことができたようである。

今回、新しい内容としてハワイ日本文化センターを訪れ、日本人移民の歴史について説明を受けるという異文化体験がプログラムに取り入れられている。なぜハワイには日系人が多いのか、日本人移民の歴史を学ぶことで、その理由を理解する機会が与えられたことは学生たちにとって大変貴重な経験であったと言える。

5年ぶり3回目の引率であったが、2014年度の本研修と一緒に引率を担当された岡村俊彦教授が本年度も引率を快諾してくださったことは心強く、事前準備及び現地での引率を息の合ったコンビネーションで進めていくことができ、私自身本当に助けられた。また、今年度もメールでの事前打ち合わせ及び現地でのサポートをしていただいた KCC の佐藤先生、その他現地でお世話になった講師及びスタッフの方々に感謝の意を表したい。

2019年度 研修日程

9月4日(水)	鹿児島空港発(NH624 11:30)、成田空港発(NH184便 20:10)、ダニエル・K・イノウエ国際空港着(8:45)
9月5日(木)	オリエンテーション、語学研修(1)(2)、(3)Mock Trial Preparation
9月6日(金)	語学研修(4)(5)、Performance by Royal Hawaiian Band Visit Iolani Palace and Iolani tour, Visit: Kamehameha Judiciary Center Mock Trial
9月7日(土)	語学研修(6) Interview Workshop at KCC Farmers Market Visit: USS Missouri, Pearl Harbor
9月8日(日)	終日自由行動
9月9日(月)	語学研修(7)(8)、Ho'okipa Me Ke Aloha Workshop
9月10日(火)	Visit: Japanese Culture Center of Hawaii, Hula Workshop
9月11日(水)	語学研修(9)(10)、Haku Lei Making Workshop
9月12日(木)	英語研修(11)(12) Final Presentation Preparation, Ukulele Workshop
9月13日(金)	英語研修(13) Final Presentation Preparation Final Presentation, Closing Ceremony and Lunch
9月14日(土)	終日自由行動
9月15日(日)	終日自由行動
9月16日(月)	ダニエル・K・イノウエ国際空港発(NH183便 11:30)
9月17日(火)	成田空港着(14:35)、鹿児島空港着(21:10)、解散



ハワイ研修を通して
 商経学科 1年 上原 あみ

今回のハワイ文化研修は14日間のプログラムで31名の学生が参加しました。私は小さい頃から憧れていたハワイに2週間も滞在できるということにとってもワクワクしていましたが、初めての海外ということもあり不安や恐怖心もありました。ハワイに到着し外に出たとき、日本とは違う空気と街並みでハワイに来たという喜びを実感しました。

次の日からカピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修が始まりました。午前中は英語の授業を受け、午後からはウクレレやフラダンス、レイ作りなどを体験し楽しみながらハワイの文化に触れることができました。カレッジの先生の授業が始まった頃は先生が話している内容を全く聞き取ることができませんでした。しかし、だんだんと単語だけが聞き取れるようになったり、なんとなく先生の話している内容を理解することができるようになりました。また、授業のなかで発表する機会が多くあり、私は先生からの質問に英語で答えることが難しく黙り込んでしまう場面がありました。自分の英語が間違っていないかなど心配になり英語を話すことに躊躇していました。カレッジの先生から「日本人はシャイだ」という言葉を何度も聞きました。その時に、失敗を恐れず自分から英語を話すことが私の課題であると思いました。それからは現地の方やカレッジの学生にインタビューをする際にも、ジェスチャーを加えたりするなど自分なりに英語を伝えられるよう努めました。現地の方は、私の下手な英語でも話を聞いてくださり、とてもフレンドリーで温かい人ばかりでした。最後の授業では、英語でのプレゼンテーションとラジオショーの発表を行いました。ラジオショーはグループに分かれ、それぞれでオリジナルのラジオショーを作りました。どのグ

ループも個性があり、自分たちの成長した姿を見せることができました。

午後の課外活動で1番印象に残っている場所は戦艦ミズーリ記念館です。実際に戦艦として使用されていたのを目にし、そこでの歴史を知りました。大日本帝国の降伏文書調印式が行われたという実際の写真やサインが置かれていて、その時の様子がよく分かりました。他にも、太平洋戦争で日本の特攻機からの攻撃を受けた場所にへこみが残っていて、悲惨な状況が伝わりました。この攻撃で亡くなられた特攻機の日本人パイロットの水葬を艦長が手厚く葬ったという話を聞き、敵を称えたミズーリの艦長の偉大さに感動しました。

このハワイ研修では、英語の勉強以外でも学ぶことが多くありました。課外活動を通してハワイの文化やハワイの言語に触れることができたり、日本との歴史的な関係を学習する機会がありました。土日の自由行動では自分たちで計画を立て、シュノーケリングやショッピングをして楽しみました。初めてワイキキビーチで見た夕日の景色は、鳥肌がたち忘れられないものになりました。日本とは違った交通ルールがあったり、買い物袋が全て有料化されていたりと生活の中でも異文化を感じることができました。2週間での出来事全てが私にとって初めてのことが多く、自分自身の成長に繋がりました。このような貴重な体験ができたことに感謝し、これからは活かしていきたいです。



ハワイ研修で学んだこと
 文学科 1年 下南 壮太郎

私は2週間のハワイ研修のプログラムに参加してさまざまなことを学び、経験することができた。ハワイは私にとって初めての英語圏の場

所だった。研修に参加する前は、日本語ができる人が多いためあまり苦労しないということを目にしていたが、やはり英語圏なので英語を使わなければならない場面は多くあった。そこで自分の英語の力を試せる良い機会となった。ホテルのフロントや、トリップアドバイザーの人、ショップの店員さんなど日本語が話せない人が想像よりも多く、自分的にはとてもうれしく感じた。自分の話す言葉で海外の人とコミュニケーションが取れる喜びと楽しさを改めて実感することができ、もっと自由に高いレベルで話したいと思った。これは研修を通して一番強く感じたことである。

次にパールハーバーの見学をしたことが心に強く残っている。パールハーバーは日本が真珠湾攻撃を行ったことで有名な場所である。そこに戦艦ミズーリ号という船が一隻止まっており、その中をガイドさんとともに見学して回った。ガイドさんが説明したマッカーサーの演説の平和に対する気持ちにすごく胸を打たれた。また亡くなった日本の特攻隊兵士に対して「亡くなった人間に敵も味方もない。国のために戦った勇姿をたたえよう。」と、しっかり埋葬を行ったという話にも胸を打たれた。世界が平和を目指して戦った戦争に敬意を持たなければならないと思った上に、もう2度と戦争を行ってはならないと思った。自分の中で平和への意識を高めることができた良い機会になったため、本当に訪れて良かった場所だと感じている。

フラダンスのレッスンの中でも学ぶことがあった。それは笑顔の大切さである。フラダンスの講師の先生は私たちにフラダンスは笑顔でいることが大切だから常に笑顔でいるようにと指導していた。先生はもちろん常に笑顔でいる。最初はすこしつまらなく感じていた授業も先生がとても笑顔で踊り、指導するのでだんだんと楽しくなっていった。先生の笑顔によってとても楽しい気持ちにさせられたのだと思う。笑顔の力は素晴らしさに気付くことのできたとても良い時間を過ごすことができた。

平日毎日行われた2コマの授業の中では自己主張の大切さを学んだ。先生は生徒一人ひとりと授業しているという意識を持ち、問いかけに自分の考えをしっかりと主張する。自分たちの自己主張が足りていないということはこの大学で授業を受けたからこそ感じると思う。日本にいるままであったらとても気づくことは難しいと思う。自己主張をしっかりとする

という意識はしっかりとこれからも持ち続けて生活していきたい。

2週間というのはとても短くあっという間に時間が過ぎていった。その中で出会った様々なことがとても新鮮であった。参加することができたこと、この研修をプログラムしていただいた先生方など多くの人に感謝したい。貴重な体験ができて本当に良かった。



異文化コミュニケーション（中国語） 文学科 楊虹・木戸 裕子

本年度の異文化コミュニケーション（中国語）を以下の内容で実施した。

研修先：中国南京農業大学国際教育学院

研修期間：2019年9月7日～9月21日

参加学生：文学科1年生7名

商経学科1年生3名

第二部商経学科一年生1名

引率者：楊虹（文学科教授）

木戸裕子（文学科教授）

後方支援：土肥克己（文学科教授）

異文化コミュニケーション（中国語）は、昨年度参加希望者数が最小遂行人数まで達していなかったため実施できなかった経緯があり、今年度の研修が実施できるかどうか危ぶまれていたが、最終的に11名の参加申込者があり、無事実施することができた。

南京農業大学（以下南農大とする）での研修プログラムは、基本的に午前中は中国語の授業、午後は中国文化に関する体験授業や、南京市内の名勝地の見学であった。授業、体験、見学すべての活動に南農大の学生ボランティアが付き添い、通訳や補助説明、道案内をしてくれていた。学生ボランティアの仕事は、南京滞在中だけでなく、上海空港への出迎えや、最終日の上海空港での見送りなど、まさに至れり尽くせりであった。学生ボランティアは、日本語専攻の2年生または3年生で、日本語力がそれほど高くない人もいるが、みな一生懸命日本語でコミュニケーションを取ろうと頑張っていた。期間中具合が悪くなった本学の学生を病院に連れて行ってってくれることも何回もあり、本当に頼もしい存在だった。このプログラムは、学生ボランティアがあって成り立つものだと言っても過言ではない。

研修プログラムは、中国語の授業のほか、中国の伝統的な文化の紹介・体験と日中学生間の異文化交流を中心に据えている。南京博物院の見学、書道、篆刻、中国画、中国武術の体験等、内容としては例年と大きく変わらなかったが、長年の実施経験を活かし、細やかな改善が加えられており、本学学生の反応も大変よく、どのプログラムにも興味を持って参加していた。日中学生間異文化交流は、日本語専攻の学生との

交流授業と、日本語コーナーでの交流と、2回あったほか、最終回に互い相手側の民族衣装を着てファッションショーをするというのがあった。いずれも本学の学生にとっては、日本語が使用できたため、ストレスなく交流でき、大学生同士の率直な意見交換ができたという意味ではよかった。さらに、中国語の研修プログラムとしての締めくくりに、何か中国語を使った活動や、発表の場を設けてもらえたら、もっと良かったのではないだろうか。

最後に、今回の研修をサポートしていただいたすべての関係者の方々に心から感謝の意を表したい。

研修日程

月日	活動内容
9.7	鹿児島→上海浦東（MU762 13:20→13:55） 貸し切りバスにて上海→南京
9.8	自由行動
9.9	南農大キャンパスツアー 歓迎式、歓迎会
9.10	中国語授業1 文化学習：中山陵見学
9.11	中国語授業2 文化学習：太極拳体験
9.12	中国語授業3 文化学習：南京博物館見学
9.13	中国語授業4 文化学習：篆刻 日本語コーナー学生交流
9.14	自由行動
9.15	自由行動
9.16	中国語授業5 日本語専攻学生との合同交流授業
9.17	中国語授業6 文化学習：中国画 夫子廟 見学
9.18	中国語授業7 修了式 送別会
9.19	貸し切りバスにて南京→上海 バンド、豫園、南京路散策 雑技鑑賞
9.20	東方明珠タワー見学 田子坊散策 黄浦江クルーズ
9.21	上海浦東→鹿児島（MU761 9:50→12:30）

写真 バンド（上海）



不中国人，中国的人 商経学科1年 橋元 優

1. 言語

海外研修に行ったことがある友人から、「言葉を喋れなくてもジェスチャーとかで伝わるよ」とは聞いていたが、その通りだった。実際、私は中国でほとんど中国語を使わなかった。単語単語をお互いに拾いあうだけで意思疎通ができた。しかし、大学外の人々が中学レベルの簡単な英語が伝わらないことには驚いた。大学内の人々は英語がペラペラだったので、教育格差があるのかなと思った。そして、言語はコミュニケーションの方法の一つであって、喋れないと他国の人と交流できないわけじゃないのだなと改めて実感した。喋っていくうちにこういう時はこういう言葉を使うのだな、というように言葉の意味は習ってないがわかるようになり、それを実際に使って伝わったときはとても嬉しくて、その言葉をすぐに覚えられた。改めて学ぶの根源は「まねぶ」だということが身にしみてわかった。

2. 経済

中国の建物は何れも大きくてその技術力の高さに驚いた。だが、所々ある大きな工場からは多くの煙が出ており、南京でさえ川は濁っていた。発展地である上海の水道水からは変な匂いがした。私は正直、これを発展とっていいのだろうかと思った。もしこれを残りの更地に作るのならどれだけ環境を汚すことになるのだろうかと不安に思った。日本は、たとえ経済発展が止まったとしても、足るを知るを美德とした文化をもう一度思い出し、これからは倫理性のある発展をしていかなければいけないなと感じた。

3. 人

私が中国に行こうと思った大きな目的の一つは「中国人への偏見をなくしたい」というものであった。親や年長者から聞く中国人へのイメージは「人に譲らない」「不衛生なことを平気でする」などマイナスなイメージなものばかりだったので、そうならそうで本当の中国人の人間性とはどういうものかを自分の目で確認したかった。しかし、日本のいいところと悪いところを考える授業で、日本人とはどういう人間性かということのを改めて考えてみて、中国人の人間性は断定することはできないと思った。日本人は譲る精神があるといてもない人もいる。道にごみを捨てない人が多数かもしれないが、

普通に捨てる人もいる。もし中国の人がその人を見たら日本人とはそういう人間性だと思ってしまうかもしれない。自分が見た中国人のイメージが悪かったからといって、その人だけを基準に中国人とはこういう人間性だと決めつけてはいけない。中国の人にも個性があり、それぞれの生き立ちがある。たった一部の人間を見て全体の人間の性質を図ってはいけないなと思った。

そこで、自分は何をもって日本人という人間性を判断し、中国人の人間性を判断しようとしていたのかということを考えて直した。

私は広島原爆を題材とした映画における一人の少女の印象深い発言を思い出した。その子はその当時の朝鮮から来ていた子で、その子の父は徴用工であった。日本人の教官はすべてのミスは朝鮮人だからとその子に擦り付け、周りの日本人はその子を軽蔑の目で見て近寄らなかった。そして、その子は「どうして姿かたちは日本人と変わらないのに朝鮮人だからと馬鹿にされるの？」と言っていた。これで私は、同じ人間を分類することへの恐怖を覚えた。今回、自分は中国の人のことを自分たちと分類して考え、ある種宇宙人を見るような感覚で見えてはいなかったらどうかと焦った。同じ人間であっても自分とは異なるものとしてみてしまうと、非人間的な行動が簡単にできてしまう。だから、私は中国人ではなく中国の人として考えるようにして、彼らは住む場所や習慣が違うだけであってそれぞれ個性を持った同じ人間だということのを忘れないようにしなければいけないと今回の研修を通して強く思い直した。



知らない人に思ったこと何でも言えますか？

文学科1年 諸藤 樹蘭

中国（南京農業大学）では中国語の授業だけでなく、たくさんの文化を体験させていただいた。自分が普段学校で勉強している中国語と生で聞く中国語は全く違い、特にピンインは自分が思っていたよりも強調されていて発音も聞き取りも難しく感じた。しかし、授業で習った中国語で話しかけてみると中国人は優しく返答してくれ、良い体験ができた。

また、授業の中で日本の良いところ・悪いところを話し合う機会があった。私が参加させてもらったグループでは日本人の良いところは著作権を守るところ、譲り合う気持ちを持っていること、悪いところは言いたいことを言わないという結果になった。中国ではあらゆる場所で偽物の商品が売られていたり、私的ダウンロード（音楽や映画・ドラマ）の違法化はされていなかったりする。これは日本では考え難いことではないだろうか。また、エレベーターに乗ろうとしたとき声をかけなければすぐにドアを閉められたり並んでいた列に横入りされたりした。今まで当たり前だと思っていたが中国に来て、「譲る」「著作権を守る」という行動は日本の良いところなのだと痛感した。

異文化体験では太極拳・合気道や篆刻、中国画を体験させていただいた。太極拳はバラエティ番組で何度か見たことがあり、初めは誰でも簡単にできるものだと思っていたが、実際に体験させてもらおうと足を一步前に出すだけでも神経を使いたった数分でくたくたになった。太極拳・合気道をしている方に尊敬する1日となった。篆刻や中国画の体験は先生から本格的に教えていただき、体験だけでなく歴史についても深く知ることが出来た。

また、南京や上海などいろいろな場所で会食する機会があった。地域によって味付けが全く異なり、匂いが強かったり独特な味だったりして楽しく食事することが出来た。ボランティアの方の故郷の味付けを聞くともっと酸っぱい、もっと辛い、と様々で、他の地域での料理も食べてみたいと思った。

中国での2週間の研修を通し私が一番驚いたことは、中国人は相手が知らない人であっても思ったことをすぐに口に出すことだ。私は初め、いたるところで大きな声で会話をしている光景を見てけんかをしているのだと思っていた。し

かし中国人は論争が好きで日常茶飯事に起こるものだと知り驚いた。中国人はストレートに物事を伝えるが、日本人は言葉をオブラートに包む傾向があるのは、中国人は論争が好き、日本人はけんか嫌いで怒らせたくないという気持ちの違いから起こるのだと感じた。また、中国人は他人の間違いや失敗もはっきり伝える。多くの日本人は、相当親しい関係を築いていない限り、「思ったこと何でも言えますか？」と聞かれてもいいえと答えるだろう。はっきり物事を言い、言われた相手も気にしない中国人の姿に憧れを抱いた。

今回の研修でもっと中国人との交流を深めたいと感じたので、中国語だけでなく価値観の違いや文化についても知識を増やしていこうと思った。同時に中国の良いところ、日本の良いところ悪いことも見つけられ、これから先経験出来ないようなとても充実した2週間となった。



■ 生涯学習の取り組み

2019年度鹿児島県立短期大学公開講座（鹿児島県民大学連携講座） 「これからビジネスはどうなるのかー情報化・グローバル化・地域活性化ー」 文学科 遠峯 伸一郎

2019年度の公開講座は商経学科・第二部商経学科の教員が中心となって実施された（コーディネーター：岡村雄輝）。輸送手段の発達によって人・物が容易に国境を超えて移動・流通するようになりビジネスのあり方が大きく変わる中で、鹿児島の企業は、地域に根差した魅力的なビジネスを展開し、海外の市場に挑んでいる。その一方で、企業の生産拠点の移転によって活気を失っている地域があり、今後は、人工知能（AI）、情報通信技術（ICT）のさらなる発達で遠くない将来に消える職業がいくつもあるとも言われている。講師陣は、こうした現状を整理・検討し、これからのビジネスのあり方を展望した。

講座は5月25日から7月13日までの毎週土曜日の午後にわたり、全8回実施された。受講申込者数35名、延べ受講者数は206名であった。なお、6回以上受講した26名には修了証が授与された。

◆各講座の担当者とテーマは次の表のとおり。

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	5/25	岡村俊彦（商経学科）	AIで、消えるビジネス／変わるビジネス／生まれるビジネス
2	6/1	宗田健一（商経学科）	知っているようで知らない鹿児島の老舗優良企業
3	6/8	福田忠弘（商経学科）	地域に眠る「宝」の活かし方
4	6/15	村田秀博（鹿児島相互信用金庫）	鹿児島県内の海外ビジネスの現状と課題、今後の展望
5	6/22	野村俊郎（商経学科）	グローバル化、シンギュラリティへ向かう世界？ ポピュリズム、BIをどう見るか？
6	6/29	瀬口毅士（商経学科）	新たなビジネスモデルとグローバル競争
7	7/6	倉重賢治（商経学科）	これからの製造業について
8	7/13	岡村雄輝（商経学科）	経理マンの未来学

◆各講師の講座内容は次のとおり。

第1回 岡村 俊彦

ここ数年で爆発的に普及したAIとはどのようなものか、なぜ今普及してきたのかをIoT、ビッグデータ、RPA（ロボットによる業務自動化）とともに説明した。さらに、さまざまなビジネス分野におけるAIの活用事例を画像や動画を交えて紹介し、今後必要とされる人材やAIによって変わるであろう未来について解説した。

地域にはさまざまな魅力が眠っている。今回の講義では、（1）中国人から見た鹿児島の魅力とその共有方法、（2）最近話題になっている鹿児島のトロピカルフルーツ栽培、（3）ユネスコ無形文化遺産に登録された和食に欠かせないカツオ節、について紹介した。「よそ者・若者・バカ者」の視点をうまく活用する重要性について言及した。

第2回 宗田 健一

6月1日は、講師の調査研究手法を紹介した上で、研究成果に基づき県内老舗優良企業を数社紹介した。具体的には、かつお節製造・加工・販売会社、サバ節製造・加工・販売会社、車海老養殖会社、真珠養殖会社、醤油醸造・販売会社、黒酢醸造・販売会社などである。講座のまとめとして、各社の経営上の工夫や老舗優良企業の特徴について説明した。

第5回 野村 俊郎

20世紀末のWTOによる貿易投資のグローバルな自由化、EU、AFTA、メルコスールなどによる地域限定だがWTOより進んだ自由化が進んだ。また、21世紀に入ってAI、IoTを利用した急速な技術革新も進んでいる。他方で、グローバル化は移民問題を深刻化させ、AI、IoTによる失業問題も懸念される。移民問題を利用したポピュリズムの台頭、失業問題に対応するベーシックインカム（BI）保障をどうするかなど21世紀は新たな問題の解決を迫られている。

第3回 福田 忠弘

第6回 瀬口 毅士

本講座では、第四次産業革命と呼ばれる新たな技術革新（AI, IoT, 3Dプリンタ等）の波について概観し、それが企業のビジネスモデルをどのように変容させるかについて講義した。とりわけ、マーケティング戦略におけるマス・カスタマイゼーションの進行を中心に取り上げ議論した。その上で、今後のビジネスのあり方に関して6つの論点に区分して展望を述べた。

第7回 倉重 賢治

18世紀の後半に最初の産業革命が起こった。現在は、情報化技術の進歩により、四度目の産業革命が進行しつつあると言われている。すべてのモノがインターネットにつながるIoTやAI、携帯電話の5世代規格である5G、3Dプリンターなどの言葉をよく耳にする。これらの説明と共に、これからが今後の製造業に対してどのような変化をもたらすのかについて述べた。

第8回 岡村 雄輝

AIの発達によって、いずれ人間の手を離れていく仕事の1つに会計も含まれているという主張がある。しかしながらそれは、「事業の言語」といわれている会計への理解を欠いた謬見と言わざるを得ない。本講演では、具体的な実務例から会計という言語の本質について考察し、未来のありうる会計実践を展望した。

◆講座の最終回に実施したアンケート調査結果（一部）は次のとおり（27名から回答）。

1. 今回の講座を知ったのは

①短大のホームページ	6
②新聞	4
（南日本新聞）	
③ポスター	1
（ハートピアかごしま）	
④知人から	5
⑤県短からのお知らせ	9
⑥かごしまシニア応援ネット	1
⑦娘	1

2. 今回の講座は

①よかった	24
②ふつう	3
③よくなかった	0

3. 自由意見

- *知らない話（カツオの話・原耕, シンギュラリティ）なども聞けて、ためになった。
- *毎回素晴らしい話に聞き入って、大変元気になる。県短の周囲をウォーキングし、毎日雨の多い日、活力・気合いが入ります。
- *現役の大学の先生たちの話を直接聞くことができ、内容も良く、有意義である。
- *今の時代に良い講義となりました。人工知能（AI）が多くなれば、人間として少なくて良いが、心が不足してくるのでは？
- *これから先のテーマについての講座であり、大変良かったと思う。
- *身近なテーマで分かりやすかった。
- *タイムリーなテーマで楽しく勉強できました。ありがとうございます。
- *経済に関することは、国内、国際問題など、毎日のようにニュースでもあり、大変参考とするところが大きかったと思う。

-情報化・グローバル化・地域活性化-

輸送手段の発達によって
人・物が容易に国境を超えて移動・流通するようになり、
ビジネスのあり方は大きく変わりました。

鹿児島には地域に根差した魅力的なビジネスを展開する企業があり、
海外の市場にチャレンジする機軸企業も増えています。

一方、企業の生産拠点を移転によって活気を失っている地域があり、
人工知能（AI）、情報通信技術（ICT）のさらなる発展によって、
遠くない将来に消える職業がいくつもあるともいわれています。

本講座では、かかる現状を今一度検討し、
これからのビジネスのあり方を展望します。

平成31年度鹿児島県立短期大学公開講座

これからビジネスは
どうなるのか

Q1 AIで消えるビジネス/変わるビジネス/生まれるビジネス
資料提供者: 商経学科教授

Q2 知っていないで知らない鹿児島の新規優良企業
資料提供者: 商経学科教授

Q3 地域に根差す「宝」の活かし方
資料提供者: 商経学科教授

Q4 鹿児島県内の海外ビジネスの現状と課題、今後の展望
資料提供者: 鹿児島県立短期大学

Q5 グローバル化・シンギュラリティへ向かう世界
とビジネスにどんな影響があるか？
資料提供者: 商経学科教授

Q6 新たなビジネスモデルとグローバル競争
資料提供者: 商経学科教授

Q7 これからの製造業について
資料提供者: 商経学科教授

Q8 経理マンの未来学
資料提供者: 商経学科教授

日時: 平成31年5月25日～7月15日 毎週土曜日 13:30～15:30 全8回

場所: 鹿児島県立短期大学 3号館 第14講義室

対象者: 一般市民 受講料: 無料

定員: 60名 (定員になり次第、締め切らせていただきます。)

募集期間: 平成31年4月15日(月)～5月17日(金)

【申込方法】
住所・氏名・年齢・電話番号のほかに公開講座希望と明記して、
以下のいずれかの方法で申し込んでください。
Fax: 099-893-4473 Email: kentankyo@pref.kagoshima.jp
ハガキ: 〒890-0005 鹿児島市下伊敷1-55-1 鹿児島県立短期大学 教務課

お問い合わせ先/ 鹿児島県立短期大学 教務課 公開講座担当 Tel: 099-220-1112 (内線1337)

2019年度 鹿児島県立短期大学 奄美サテライト講座
生活科学科 坂上 ちえ子

2019年度は、8月31日に徳之島会場、9月7日に与論島会場の2会場で開催された。日時や講師名、テーマ、参加者数は表の通りであった。例年、台風に見舞われるため、時期を早めたが、与論島会場は、台風接近のため開催が危ぶまれた。参加者が予定より少なくなってしまうが、無事に開催され、熱心な島民の方々に来ていただけた。いずれの会場も農業繁忙期の開催となったが、ポスターやチラシ、地元新聞社、役場の協力を得て、開催することができた。関係者には感謝を申し上げたい。

令和元年度 奄美サテライト講座 実施結果

徳之島会場 8月31日(土)(天城町役場4F ユイの里ホール)

時間	講師名(所属)	テーマ	参加者数
午前の部 10:00～12:00	石井 英里子 (文学科)	Need some help? - 3語ではじめる天城町おもてなし英会話-	28名
午後の部 13:30～15:30	野呂 忠秀 (学長)	海の砂漠化「磯焼け」と海洋のゴミ問題	80名

与論島会場 9月7日(土)(与論町福祉センター多目的ホール)

時間	講師名(所属)	テーマ	参加者数
午前の部 10:00～12:00	野呂 忠秀 (学長)	サンゴの白化現象とウミガメによる漁業被害	19名
午後の部 13:30～15:30	北 一浩 (生活科学科)	鹿児島発のデザイン	13名

講義概要

石井 英里子(8月31日 徳之島会場)

本講座では、天城町に来た外国人旅行者に声をかけるシーンを中心に、体験的に学ぶワークショップを行いました。まず、外国人観光客のおもてなしに使える簡単な英語表現について解説し受講者のみなさんと一緒に練習した後、5つのグループに分かれて、外国人の方におもてなしをする場面を各グループで設定し、スキットを作り、さらに動きを付けてiPadで動画を撮影して、最後にスキットのシェアリングを行いました。参加者はとても積極的な方が多く、英語に苦手意識のある方も、英語が得意な方も、皆さん一緒に楽しく学ぶことができました。

野呂 忠秀(8月31日 徳之島会場)

海藻の群落は、魚介類の産卵生育場所として水産資源の再生産に必要な存在である。しかし、この海藻類が消失し、海底の岩肌が無節サンゴ藻に覆われて白く変色する「磯焼け」現象が日本各地で報告されており、沿岸漁業上は勿論のこと、海洋環境上の問題となっている。「海の砂漠化」とも呼ばれる「磯焼け」現象の原因や、藻場造成の研究の現状とともに、海洋の漂流ゴミの実情についても紹介した。

野呂 忠秀(9月7日 与論島会場)

サンゴの刺胞には刺糸が入っていて触ると飛び出し獲物を麻痺させる。また、体中には褐虫藻が共生している。この褐虫藻は光合成同化産物をサンゴに与え、サンゴから住み家と光合成に必要な二酸化炭素を得る。サンゴ類が赤や黄色を呈しているのは、この褐虫藻の色による。サンゴの白化現象は共生する褐虫藻が水温の急激な上昇に耐えかねてサンゴの体内から泳ぎ出したもの。今回はウミガメによる漁業被害についても紹介した。

北 一浩(9月7日 与論島会場)

今、地元を知り尽くしたデザイナーならではのアイデアとデザイン力で、地域を活性化させる動きが高まり、盛り上がりを見せています。鹿児島島の若者たちがデザインした、地元の特産物のパッケージからチラシ・名刺・地域ブランドまで、「鹿児島発」をキーワードに本学生活科学科生活科学専攻ビジュアルデザイン研究室が関わった事例を紹介しました。講演後にはデザインに関する個別相談も実施しました。

アンケート結果 (2会場: 回答数140)

- (1) 男女
男・52名, 女・43名, 未回答・9名
- (2) 年齢
10歳代・2名, 20歳代・7名,
30歳代・14名, 40歳代・12名,
50歳代・12名, 60歳以上・54名, 未記入・5名
- (3) 講座を知ったのは (複数回答)
県短 HP・0名, 新聞・0名,
ポスター・30名, チラシ・10名,
知人・36名, その他・28名, 未記入・2名
- (4) 講座の評価
良かった・82名, 普通・19名,
良くなかった・2名, 未記入・3名
- (5) テーマの評価
良かった・81名, 普通・20名,
良くなかった・2名, 未記入・3名
- (6) 開催時期
良かった・84名,
良くなかった・13名, 未記入・9名
- (7) 講義回数
良かった・80名, 多すぎた・4名,
少なすぎた・5名, 未記入・17名
- (8) 自由意見 (一部抜粋)
 - ・英語は完璧でなくてもジェスチャーで伝えれば良いことがわかった
 - ・さらに英語を勉強します
 - ・グループ (ワークショップ) で作るやり取りが楽しかった
 - ・プラスチックゴミがなくなることは難しいとのこと, 残念です
 - ・ゴミ問題については, 世界遺産に向けて取り組みたい
 - ・4歳になった孫と海岸のゴミを拾ったばかりだったので, 海洋ゴミについて考えさせられました
 - ・2時間があっという間でした! ありがとうございました
 - ・地元において, このような講義が拝聴できたことに感謝です
 - ・天候不良の中, 与論島までお越しいただき, 誠にありがとうございました
 - ・情報が多い中, 専門家の話はためになる
 - ・リアルな現場の話が聞けてとても良かった
 - ・来年も是非計画してほしい

(9) 希望するテーマ (一部抜粋)

- ・英語の第2弾をしていただければありがたい
- ・集落の活性化
- ・島の自立 (経済的な自立)
- ・AI 時代の与論島の価値 (魅力)
- ・今回のテーマの続編, レベルアップバージョンなどをして頂けると楽しみです

豊かな明日のために

六年目を迎える県立短大の奄美サテライト講座。
今年は、徳之島に加えて、与論でも開催。
最強の講師陣がおくる「知」の鍛え方。

第1回 8月31日(土)	第2回 9月7日(土)
徳之島会場 天城町役場 ユイの里ホール(4F) 大島郡天城町平上野2691-1 ☎0997-45-3111	与論会場 与論町地域福祉センター 大島郡与論町茶花2643-3 ☎0997-97-4802
1回 10:00 - 12:00 Need some help? 3段で知らぬ天城町おもてなし英会話 石井 美穂子 (文学科英文学専攻 准教授)	1回 10:00 - 12:00 サンゴの白化現象とウミガメによる漁業被害 野島 俊英 (学長)
2回 13:30 - 15:30 海の砂漠化「磯焼け」と海洋のゴミ問題 野島 俊英 (学長)	2回 13:30 - 15:30 鹿児島発のデザイン 北一佳 (生活科学科生活科学専攻 准教授)

チラシ裏面の申込み用紙によりFAXにて、どなたでも事前申込みができます。
定員: 各講座100名 受講料: 無料

主催: 鹿児島県立短期大学 共催: 鹿児島県立奄美サテライト/鹿児島県沖永良部事務所 後援: 天城町教育委員会/与論町教育委員会
お問い合わせ: 鹿児島県立短期大学 総務課 ☎099-220-1111 ㊚kenamam@pref.kagoshima.lg.jp ㊚www.k-senst.ac.jp

鹿児島県立短期大学奄美サテライト講座2019

2019年度 伊敷公民館講座
文学科 遠峯 伸一郎

2019年度伊敷公民館講座「シニア生き生き大学」は、本学の文学科、生活科学科、商経学科の教員が講師を担当し、10月9日から11月27日まで、計8回にわたり実施された。受講生の登録数は33名で、延べ受講者数は216名であった。各回の講座終了後、受講生が書いたアンケートは、教務課または次回の担当教員を経由して、講座担当者に渡されている。

「今回のような内容の講座は初めてでしたので、興味深く拝聴致しました。」「改めて食生活を見直す機会をもらいました。」「くすりが社会を支える、のではなく、くすりを支える社会、という発想転換には驚いた。」「ワークや話し合いを設定され、とても楽しく受講することができた。グループ内での話し合いから多くのものを得た。」「身近なことなのに、改正されてからの記号をほとんど知らなかった。今日の勉強はすごくためになり、楽しかった。」「格調高い内容であり、先生の素晴らしい発音、豊かな学識に触れられて幸いでありました。」「これまでの日本銀行の金融政策の歴史的流れをていねいに説明していただいた。初めて聞くことであり、新鮮で、インパクトがあった。」「お茶に香りという視点。興味深い内容で楽しく受講させていただきました。香りをくらべてみたいなあと思いました。」「(表記を一部改変)のようなコメントを受け取り、概ね好評だった。

以下では、各回の担当者とテーマ、講座の概要および講師陣のコメントを掲載する。

各講座の担当者とテーマ

回	実施日	担当者 (所属)	タイトル
1	10/9	木下朋美 (生活科学科)	鹿児島島の煎茶と抹茶の多様な世界
2	10/16	内田昌廣 (商経学科)	なぜ異次元の金融緩和は成功しないのか
3	10/23	小林朋子 (文学科)	詩から読み解くアメリカ社会の変容
4	10/30	浅海真弓 (生活科学科)	衣料品の品質と表示
5	11/6	石井英里子 (文学科)	大人の学び方 ～これまでの学び方を振り返り、これからの学び方を考える～
6	11/13	山口祐司 (商経学科)	特効薬と経済学 ～くすりを生み出す社会の仕組みはどう変わってきたか～
7	11/20	有村恵美 (生活科学科)	食生活と健康寿命 ～少し考えながら食べる～
8	11/27	望月正道 (文学科)	20世紀前半の日本語音源を聞く

各講座の担当者とテーマ

第1回 木下朋美

【概要】

鹿児島で製造される茶種や栽培品種、お茶の淹れ方などについて特に香りの面から解説した。また煎茶と萎凋香緑茶の水出し茶の飲み比べも行った。

【コメント】

受講した方から「お茶についての認識が広がった」「急須を使って飲む機会を増やします」「水出し茶の手軽さ、旨味、香りの違いを感じた」「お茶の香りに今後注目していきたいです」などの感想が寄せられた。地元の特産品であるお茶をこれまで以上に楽しんでいただけたら幸いです。

第2回 内田昌廣

【概要】

デフレ不況下で行われたゼロ金利政策・量的緩

和政策の仕組みとデフレ脱却に成功しなかった理由、黒田日銀総裁が続けている異次元緩和・マイナス金利政策の仕組みと、リーマン・ショック後の米国が量的緩和と政策で不況脱出に成功したのに日本では6年半経っても成功していない理由について解説した。

【コメント】

受講者の方からは、「難しそうと予想した金融政策の話、図やデータ・裏話的な話を交えて分かりやすく面白く聞くことができた」「ニュースで見聞きした専門用語の意味、経済や金融の動きがよく分かり有意義だった」などの感想を多く頂いた。

第3回 小林朋子

【概要】

アメリカの歴史は、その広大な土地に西洋文明

というものが侵入し、広がっていった歴史でもある。歴史の混沌の中にあっても、人々はその地で豊饒な文化を育ててきた。本講義では、ネイティブ・アメリカンの口承文学からボブ・ディランに至るまで、各時代を代表する詩作品を丁寧に読み解くことで、アメリカ社会が抱えた問題や、時代を映す思想などを解説した。

【コメント】

作品の音を味わうため、原文を参照しながら講義を行った。英語が苦手という受講者がほとんどだったが、丁寧に解説することで訳文では分からない詩のリズムを掴んでくださる方も少なからずいたことが、うれしかった。

第4回 浅海真弓

【概要】

消費者に製品の品質情報を適切に提供するために、近年改正された衣料品の表示（家庭用品品質表示法に基づく繊維製品品質表示規程）の概要について解説した。講義の後半には10問の洗濯表示クイズを出題し、その答え合わせと解説、新しい洗濯表示記号の意味や覚え方のポイントについて説明した。

【コメント】

皆さん熱心にメモを取りながら、聴いてくださり嬉しかったです。これから服を購入する時や洗濯する際には表示を確認するようにしたいとの感想をいただき、今回の講座を担当できて良かったと思いました。

第5回 石井英里子

【概要】

その時代において当然のことと考えられている認識や思想、社会全体の価値観などが革命的にもしくは劇的に変化することパラダイムシフトと言う。これは科学史家であるトマス・クーンが科学革命で提唱したパラダイム概念の説明で用いたものであるが、このパラダイムシフトを切り口に、本講座では「教育のパラダイムシフト」と「3つの学習観パラダイム（行動主義的学習観、認知主義的学習観、社会構成主義的学習観）」について解説した。

【コメント】

グループディスカッション中、受講者の皆さんの生き生きとした表情がとても印象的でした。

第6回 山口祐司

【概要】

科学を用いたくすり（いわば「特効薬」）の「発

見」が行われるようになったのは、この100年の出来事である。それまでの人類の長い歴史においては、極めて困難だった様々な病気の治療がくすりはじめとする医療技術によって可能になった。

その一方、特許制度をはじめとして、くすりの開発コストを支払う仕組みも同時に作られてきた。しかし現在、この仕組みによって薬価の高額化に歯止めが利かなくなり、医療システムの持続性までもが脅威にさらされている。

【コメント】

とても熱心な受講者が多く話しやすかった。「くすりを開発するためのシステムを具体的にどう改革すべきか」という、問題提起を正面から受け止めた質問もいただき、私からの回答は未熟ながらも、会場全体でこの問題を考える機会になったのではないかと思う。

第7回 有村恵美

【概要】

生活習慣病増加・医療費増加の一要因に食生活の変化があり、食生活が健康に及ぼす影響について解説した。健康寿命を延ばすため、自分の健康を守るために、自分の食事の問題点を分析してもらい、食物を選択する具体的な方法、脂質の選択方法、減塩方法、食物繊維確保などについて説明した。また、医療用特殊食品について紹介し提供した。

【コメント】

参加者の皆さん、食に関する興味・関心が高く、熱心に聞いて下さいました。講義中講義後も質問もあり、学ぶ意欲の高さに私自身も刺激を頂いた貴重な時間となりました。

第8回 望月正道

【概要】

日本語音声を記録した音源としては1900年パリ万博の川上音二郎一座などが知られているが、その後、日本国内でも落語などがレコード化された。今回の講座では、YouTube や国立国会図書館の歴史的音源でインターネット公開されているものを紹介し、日本語学の観点から解説した。

【コメント】

こういう音源を聞くのは初めて、という感想が多かったので、紹介した意味はあったと思う。明治期の落語からは、言葉の変化や東西の違いを聞いていただいた。鹿児島出身者の音声では東郷平八郎のものが「セ」の口蓋化がはっきり聞こえて興味深かったようだ。

<共同研究プロジェクト>

中小企業における会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究

商経学科 岡村 雄輝
宗田 健一
鹿児島国際大学 櫛部 幸子

本研究は、3年計画で鹿児島県下の中小企業における経営者、会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究を行うことを目的としている。

2年目となる今年度は調査対象となった複数の会社を訪問し、次の2つの会社でより踏み込んだ実態調査を実施した。1つはクルマエビの養殖・販売業を営む会社であり、同社における種苗・養殖・販売についてビジネスモデルを確認するとともに、生産管理等の経営課題及び会計担当者が認識している実務の効率性等の課題についてインタビュー調査を行った。2つめは大企業からのEBOによって設立された真珠の養殖・販売業を営んでいる会社の設立経緯、経営状況、ビジネスモデル、原価計算、会計実務の分担等についてインタビューした。先行研究の蓄積が十分ではなく、探索的な調査となったが、成果の一部は日本簿記学会の第4回簿記研究コンファレンスにおいて発表した。

鹿児島県中小企業家同友会の協力を得て、同会の会員企業の経営者、会計担当者を対象とした経営管理・会計実務に関するアンケート、南九州税理士会鹿児島支部所属の税理士を対象とした顧問先への経営管理・会計・税務の支援状況に関するアンケートによって県下の中小企業の会計実務の現状と課題を調査した。いずれも関東、北陸等で実施された先行研究をふまえた調査であるため、今後、比較考察を進めることによって鹿児島県の実情の一端が明らかになるだろう。

本研究は調査対象を鹿児島県の企業に絞り込みながらも簿記会計実務に関する新たな学術的知見を得るものであり、他方、県下の中小企業が抱える経営面、会計面の課題に対しても実践的知見を与え、延いては地域産業振興に寄与するものであると考えている。

<個人研究プロジェクト>

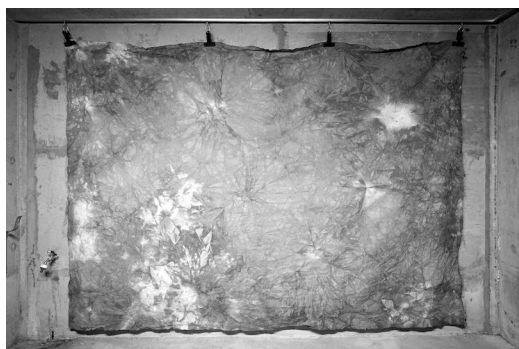
奄美大島・泥染めによる美術作品の制作

生活科学科 北 一浩

気が遠くなるような工程を経て織り上げられる大島紬。日本全国どの伝統工芸にも後継者不足という問題が付きまわっているが、大島紬も同じ課題を抱えている。奄美大島には大学がなく、進学と同時に島を出て行く若者が後を絶たない、ということもあるが、一番の要因は、職人たちの賃金の低さであろう。国が定める最低賃金を軽々と下回っていることは、公然の秘密となっている。伝統工芸に関して、雇用形態など現代社会のそれとは異なる世界の話となってしまうため、一概に語ることは難しいが、いまの時代にそれは通用しないと考えるべきである。なぜ、それほど賃金が安くなってしまったのか。答えは明白で、大島紬が売れないためである。売れないことには生産できない、当然従事する職人たちの仕事は減り賃金は低くなる。

そのような中、多くの大島紬に関わる人々が、事態を打開しようとさまざまな取り組みを行っている。その中でも目を見張る成果を上げているのが、大島紬の工程のうち染色を担う有限会社金井工芸である。従来行ってきた大島紬に関わる仕事に加え、積極的にアパレルなど他業種の仕事も行っている。また活動範囲は海外へと広がっており、結果的に大島紬の伝播へと繋がっている。

現在は、その金井工芸のサポートを受け、泥染めによる美術作品の制作を数年来行っている。1300年以上も続く技法を表現として昇華させるための試みを今後も継続していきたい。



本研究は、障害児の普通高校（専門高校・定時制等を含む）進学について、全国的に拡大している高校における障害児教育が課題である。

文科省も2015年度より、高校における通級（特定時間を取り出して、他の生徒から切り離されて別扱いで授業を行う）の研究を開始している。2019年では全国各都道府県で最低1校は実施することとされている。鹿県では開陽高校で実施している。2015年の試行では3校実施され、その一件は北海道の十勝管内中札内にある高校である。

2018年度から高校での「通級」による指導が全国化することとなった。そこでの焦点は、発達障害を中心とする障害児とよばれる子どもたちの高校進学が実現することになる。というよりもむしろ、現在の特別支援教育では発達障害の位置づけが明確ではない。そこで特段の支援や配慮なしに高校教育の対象となってしまうのである。

こうした中、2017年3月、中学校を卒業し、北海道立の高校を受験したが不合格とされ（いわゆる、定員内不合格）、2018年春、浪人の末、道立高校に入学した生徒がいる。このときの入試に際しては、ある程度の「合理的配慮」がなされた。こうした入学をめぐる配慮事項や入学後の高校生活の様子についても聞き取りを今年度も行った。現在2年生に進級し在籍している。

また、2020年の入試時期には旭川市で高校進学を希望する障害のある中学生がいる。今年は、保護者から聞き取りを行った。この結果については、また別途報告したい。現在のところ、担任も協力して進学先を探している。入試自体は3月なので、その後の経過も含めて検討して報告したい。

このほか、北海道の調査時には、小中の普通学校在籍児童生徒の保護者からが生活の実態について聞き取りを行った。

高校通級の制度化及び本格実施が障害児の高校進学を徐々に切り拓きつつあるが、やはり特別支援学校高等部への進学圧力は強い。鹿県でもほとんどがそのような指導がなされる。東京大阪神奈川などでは希望すれば入学が可能になっている。北海道は鹿児島県同様門が閉ざされているが、一部に入学できている事例もある。今後、可能になる事例について研究を進めていきたい。

鹿児島県枕崎は、全国で消費されるカツオ節の約50パーセントを生産している。この枕崎のカツオ漁およびカツオ節製造に大きな役割を果たしたと言われるのが、原耕（はら・こう：1876年～1933年）という人物である。原耕は医者であったにもかかわらず、40歳の時からカツオ漁に乗りだし、数年で枕崎ナンバーワン漁師になった。日本近海でカツオが取れにくくなっていった大正時代後期、原耕は日本が当時委任統治していたパラオ、オランダが支配していたオランダ領東インド（蘭印）の海域の漁場調査を行い、大成功を収めた。この漁場調査は、原耕の第一次南洋漁場開拓事業と呼ばれるが、この調査以降、南洋の水産資源に注目があつまるようになっていった。

原耕の第一次南洋漁場開拓により日本の多くの水産業者が南洋に進出していくことになった。そのなかの一つに、静岡県焼津の皇道産業焼津実践団という団体がある。皇道産業焼津実践団は、現代まで続く水産会社、マルハチ村松の第三代社長の村松正之助により設立された団体である。村松正之助が社長を務めたのは日中戦争が悪化し、太平洋戦争が始まる時期である。この時期の焼津カツオ節製造業者は、戦争のためにカツオ船を徴用され、カツオ節製造を行うことができなかつた頃である。そこで村松正之助は皇道産業焼津実践団を立ち上げ、南洋のフィリピン、ボルネオでのカツオ節生産を試みたのであった。しかし戦争の激化により、多くの従業員が南洋で命を落とした。

今回のプロジェクト研究では、皇道産業焼津実践団の資料集めを行った。マルハチ村松を訪問し、第5代社長、第3代社長の令嬢などにインタビューを行うと同時に、村松正之助に関する資料の提供を受けた。また、皇道産業焼津実践団の資料は焼津鯉節水産加工業協同組合にも保管されている。同組合を訪問して、保管されている資料を閲覧した。かなりの量の資料が保管されているため、別な機会に写真撮影のために訪問する必要がある。また南洋で命を落とした水産業者のための慰霊施設が焼津神社に置かれている。焼津神社を訪問し、これまでの慰霊事業についての話を伺った。

■ 研究・社会活動報告

鹿児島県立短期大学教員 研究・社会活動報告一覧 2019年1月～2019年12月

野呂 忠秀 学長

資料・研究ノート

1. 「宮崎市漁業協同組合地先海域に設置したイセエビ礁の効果について」, 単著, 平成30年度調査報告書, 国土開発コンサルタンツ, 2019年3月, pp. 1-20.
2. 「平成30年度アイランドキャンパス事業(成果報告書・提言書, 喜界島エコツーリズムカレッジ(島の環境と観光資源を利用した県内短期大学共同研究許定形成の試み)」, 共著(○野呂忠秀, 柳田慶一), 鹿児島県離島振興協議会, 2019年2月, pp. 1-9+ 資料 pp. 1-122.

学会活動

日本水産学会1976年6月～
日本水産増殖学会1984年4月～
国際藻類学会1980年4月～
日本藻類学会1976年6月～

社会活動

1. 2000年4月～, 内閣府沖縄総合事務局中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会委員
2. 2007年4月～2020年3月, 鹿児島市中央卸売市場運営協議会会長
3. 2016年4月～, 鹿児島県雇用能力開発機構(ポリテクセンター鹿児島)運営協議会座長
4. 2016年4月～, 鹿児島県育英財団評議会議長
5. 2019年9月～, 鹿児島県ユネスコ協会理事
6. 2019年7月～2020年2月, ソーシャルファームジャパンサミット鹿児島実行委員長

文学科

日本語日本文学専攻

木戸 裕子 教授

学会発表

1. 「『与元九書』と平安朝文人一詩人が生涯を振り返る時」, 単独, 早稲田大学日本宗教学文化研究所主催フルンボイルセミナー, 於中華人民共和国内蒙古自治区額爾古納市美柯曼尼酒店, 2019年8月7日

学会活動

和漢比較文学会1986年5月～
和漢比較文学会常任理事2011年10月～
和漢比較文学会西部例会委員会副委員長
2015年10月～
中古文学会1986年5月～
西日本国語国文学会1988年9月～
東アジア比較文化会議2002年9月～
説話文学会2005年6月～

社会還元

1. 講師
「赤染衛門集を読む」, 金曜会(読書会),
2015年9月～

社会活動

1. 2013年11月～2015年10月, 鹿児島市文化財審議会委員
2. 2015年11月～2017年10月, 鹿児島市文化財審議会委員
3. 2017年11月～2019年10月, 鹿児島市文化財審議会委員
4. 2019年11月～2021年10月, 鹿児島市文化財審議会委員

竹本 寛秋 准教授

著書

1. 倉敷市・薄田泣菫文庫調査研究プロジェクトチーム編, 『薄田泣菫読本』, 翰林書房, 共著(片山宏行, 西山康一, ○竹本寛秋, 掛野剛史, 庄司達也, 荒井真理亜, 加藤美奈子), 2019年3月, 159総頁, 担当箇所: 第2章「詩人としての絶頂期」, pp. 30-47, 「泣菫の作品鑑賞 詩」, pp86-110)

学術論文

1. 「新川和江の表現機構—中学校国語科教材を手がかりとして—」, 単著, 『詩と思想』, 第3巻381号, 2019年3月, pp. 57-65.
2. 「山村暮鳥の小説における方法意識—『春』を手がかりとして—」, 単著, 『雲』, 第24号, 2019年9月, pp. 4-13.

報告

1. 「飯島耕一と定型, そして中也理解」, 単著, 『中原中也の会 会報』, 第46号, 2019年7月, p. 5.

その他の出版物

1. 「山村暮鳥と魁新報」, 単著『秋田魁新報』,

2019年4月15日, 文化欄

2. 「新潟出身の詩人・市島三千雄 未知の作品見つかる」, 『新潟日報』, 2019年10月11日, 文化欄

その他(研究助成)

1. 「山村暮鳥「説教メモ」の総合的研究 — 明治大正における詩的言語形成の底流の解明」科学研究補助金, 基盤研究C(研究代表者), 2017~2020年度
2. 「雑誌『小天地』(金尾文淵堂発行)の基礎的研究—明治期大阪文芸メディアの戦略分析—」科学研究補助金, 基盤研究C(研究分担者), 2019~2022年度

学会活動

北大国語国文学会, 1996年4月~, 北大国語国文学会 評議員

日本近代文学会, 1996年4月~, 日本近代文学会九州支部 運営委員

日本文学協会, 1996年4月~, 日本文学協会 運営委員

日本比較文学会, 2009年4月~

昭和文学会, 1996年4月~

暮鳥会, 2007年4月~

社会還元

1. 講師
『薄田泣菫読本』刊行記念「薄田泣菫を語ろう 『薄田泣菫 人と文学』」, シンポジウム, 於: 連島公民館, 2019年3月28日
2. 講師
「西條八十うた散歩」, 於: サンエールかごしま, 2019年5月24日
3. 講師
『降りつむ一皇后陛下美智子さまの英訳とご朗読』, 鹿児島読書サークル講師, 於: 鹿児島市教育総合センター, 2019年6月14日
4. 講師
「大学で学ぶ文学」, 出張講義, 於: 鹿児島明桜館高校, 2019年7月9日
5. 講師
「名文の謎を解き明かそう」, ミニ講義, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年7月20日
6. 講師
「食をめぐる文化的背景と鹿児島県の産業と食」, 教員免許状更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年7月23日
7. 講師
「薄田泣菫」, 鹿児島読書サークル講師,

於: 鹿児島市教育総合センター, 2019年11月8日

社会活動

鹿児島県高等学校文化連盟弁論大会審査員, 於: 鹿児島松陽高等学校, 2019年10月16日

土肥 克己 教授

社会還元

1. 講師

「中華料理の極致 満漢全席」, 教員免許更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年7月23日

社会活動

「第24回外国人による日本語スピーチコンテスト」, 本選審査員, 於: かごしま県民交流センター, 2019年1月26日

楊 虹 教授

学会発表

1. 「SNSのやり取りからみる日中のコミュニケーションスタイル」, 単独, 中国日語教学研究会2019年度学術大会及び日本学研究会国際シンポジウム, 於: 杭州師範大学, 2019年11月3日, pp. 125-126.

学会活動

社会言語科学会 査読協力

英語英文学専攻

石井 英里子 准教授

翻訳

1. Nasu, M. 「Possibilities and Pitfalls of Competency-Based Education」, 単訳, English E-Journal of the Philosophy of Education, Vol.4 (August 2019), pp. 49-54, Philosophy of Educational Society of Japan(教育哲学会).

学会発表

1. 「SNSを活用した日本人向けおよび外国人向け観光地情報の抽出—文化的背景の異なる人々の興味の違いを拾えるか—」, 共同, (○星野祐子, ○石井英里子, 柴田健太郎, 大友 隆秀, 山田光穂), DEIM2019 第11回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(第17回日本データベース学会

年次大会), 於: ホテルオークラ JR ハウステンボス, 2019年3月4~6日

2. 「外国人向け観光情報作成のためのTwitterからの情報抽出ー「外国人が取得しやすい」を考慮した情報提供に向けてー」, 共同, (○星野祐子, 柴田健太郎, 石井英里子, 大友 隆秀, 山田光穂), 観光情報学会第16回全国大会, 於: 米子コンベンションセンター (BiG SHiP), 2019年6月29~30日

学会活動

TESOL International Association, 2008年3月~
多文化関係学会, 2010年4月~ 査読委員 (2017年6月~)
全国英語教育学会, 2018年9月~
九州英語教育学会, 2018年9月~
メディア外国語教育学会 (LET), 2018年9月~
大学英語教育学会, 2018年9月~

社会還元

1. 講師
授業研究会, 於: 薩摩川内市立黒木小学校, 2018年6月27日
2. 講師
「アクティブラーニングで学ぶ異文化コミュニケーション」, 出張講義, 於: 鹿児島県立加世田高等学校, 2019年7月26日
3. 講師
「Need some help? 3語で伝わる天城町おもてなし英会話」, 奄美サテライト講座, 於: 徳之島天城町町役場ユイの里ホール, 2019年8月31日
4. 講師
「アクティブラーニングで学ぶ異文化コミュニケーション」, 出張講義, 於: 鹿児島県立武岡台高等学校, 2019年9月21日
5. 講師
「小学校英語における評価について」, 教員研修会, 於: 鹿児島市立玉江小学校, 2019年11月5日
6. 講師
「大人の学び方ーこれまでの学び方を振り返り, これからの学び方を考えるー」, 伊敷公民館講座「生き生きシニア大学」, 於: 伊敷公民館, 2019年11月7日
7. コーディネーター
「Kentan English Workshop for Tamae

Kids」, ワークショップ, 於: 鹿児島県立短期大学大学 会館大ホール, 2019年11月28日

ガルシア アロヨホルへ 講師

学会発表

1. 「The Origins of Melville's Symbolism Regarding Spanish Catholicism: A Way of Describing Evil」於: 東北学院大学 土樋キャンパス, 2019年10月5日, 日本アメリカ文学会 第58回全国大会

学会活動

九州アメリカ文学会 2016年4月~現在
The Melville Society 2016年8月~現在
日本アメリカ文学会 2016年9月~現在

社会還元

1. 講師
「日本とスペインの文化比較: 自己経験分析」, 金曜講演会, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年11月15日

小林 朋子 准教授

著書

1. 『エスニシティと物語りー複眼的文学論』, 共著, 西垣内磨留美, 君塚淳一, 中垣恒太郎, 馬場聡, 小林朋子他, 金星堂, 2019年3月, 414総頁, (執筆担当: 「比較文学の可能性ー日米作家の語りの手法に学ぶ」, pp.125-137.)

学術論文

1. 「“Unspeakable Thoughts Unspoken” を描くことー『父と暮せば』と『ピラヴド』に見る「近代的生」」, 『原爆文学研究』第18号, 2019年12月, pp.82-95.

その他の出版物

1. 書評 西垣内磨留美・山本伸・馬場聡編著『衣装が語るアメリカ文学』, 『英文学研究』和文号第96巻, 2019年12月, pp.103-108.

学会発表

1. 「“Unspeakable Thoughts Unspoken” を描くことー『父と暮せば』と『ピラヴド』に見る「近代的生」」, 第59回原爆文学研究会, 於: 広島大学東千田キャンパス, 2019年7月28日

学会活動

日本アメリカ文学会, 2006年~, 会員
日本英文学会, 2006年~, 会員

鹿児島英語英文学会， 2006年～， 会員
多民族研究学会， 2011年～， 会員
(2019年8月より大会運営委員)

原爆文学研究会， 2019年～， 会員

社会還元

1. 講師

「追悼トニ・モリスン：『青い眼がほしい』—ある少女の物語—」， 市民公開講座 (NPO 法人かごしま文化研究所主催)，
於：文学サロン月の舟， 2019年10月5日

2. 講師

「詩から読み解くアメリカ社会の変容」，
伊敷公民館講座， 2019年10月23日

3. 講師

「世界文学への招待」， 鹿児島県内10
大学・短期大学合同進学ガイダンス (大学
地域コンソーシアム鹿児島 高大連携事業
部会主催)， 於：鹿児島大学郡元キャン
パス， 2019年12月7日

社会活動

- 2019年度 鹿児島大学大学院人文社会科学
研究科紀要『地域政策科学研究』査読委員

土持かおり 助教

学会活動

大学英語教育学会 (JACET) 九州・沖縄支
部研究企画委員， 2014年4月～

大学英語教育学会 (JACET) 会員， 1984年9
月～

外国語教育メディア学会 (LET) 会員，
1984年6月～

九州英語教育学会， 2002年6月～

社会還元

1. 講師

「英語学習 成功する人， しない人」， 出張
講義， 於：鶴翔高校， 2019年6月20日

2. 講師

「英語学習 成功する人， しない人」， 出張
講義， 於：錦江湾高校， 2019年11月12日

3. 海外研修引率

異文化コミュニケーション (英語)， 米国
ハワイ州， 2019年9月4日～17日， 参加人
数31名

遠峯伸一郎 教授

学術論文

- 「否定的な使役を表す「keep + NP +
from + 動名詞」の史的発達」， 単著，

立正大学大学院年報 (文学研究科)， 第36
号， 2019年3月， pp. 45-57.

学会活動

日本英語学会， 1995年～現在に至る， 会員
近代英語協会， 1997年～現在に至る， 会
員； 2018年4月～現在に至る， 編集委員

生活科学科

食物栄養専攻

有村 恵美 助教

著書

- 北島幸枝編著，『透析患者の食事管理』，
メディカ出版，共著 (○北島幸枝，有村恵
美，他38名)， 2019年12月， 271総頁，
担当箇所：第3章「食事に関するナースの
ぎもんQ & A」， pp.190-199.

学術論文

- 「Food intake and core body temperature
of pups and adults in a db mouse line
deficient in the long form of the leptin
receptor without misty mutation.」， 共
著， (○Wijang Pralampita Pulong, Miha-
ru Ushikai, Emi Arimura, Miwa Nakakuma,
Masaharu Abe, Hiroaki Kawaguchi, Masa-
hisa Horiuchi)， Journal of diabetes
research, 査読有， 2018, 2018:9670871.
- 「食塩摂取状況アンケートおよび食塩味覚
感受性評価の報告～鹿児島市CKD啓発イ
ベント参加者を対象として～」， 共著，
(○有村恵美， 大山律子， 町田美由
紀， 日高宏美， 阿部正治， 中熊美和，
堀内正久)， 「日本栄養士会雑誌」，
62(2)， 2019年2月， pp.89-95.
- 「A3ふき取り検査法を用いた爪ブラシ適正
管理の検討」， 共著， (○中熊美和， 大久
保由梨， 有村千鶴， 尾込いずみ， 吉田百合
奈， 有村恵美)， 「食生活研究誌」， 39巻5号，
2019年7月， pp34-42.

資料

- 鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課「健
康かごしま21 (平成25年度～平成34年度)」
中間評価報告書， 共著， 平成31年1月

その他出版物

- 「Intake of coffee associated with de-
creased depressive symptoms among el-

derly Japanese women: a multi-center cross-sectional study」, 共著・, (○ Yasumi Kimura, Hitomi Suga, Satomi Kobayashi, Satoshi Sasaki, the Three-Generation Study of Women on Diets and Health Study Group), Journal of epidemiology, 2019 in press)

学会発表

1. 「腹膜透析患者における血清亜鉛濃度と食事頻度調査との関連」, 共同, (○中熊美和, 大久保由梨, 尾込いずみ, 吉田百合奈, 松本秀一朗, 益満美香, 東園美千代, 萩原隆二, 高田昌実, 有村恵美), 第25回日本腹膜透析医学学術集会, 於: 広島国際会議場, 2019年11月23日, 第25回日本腹膜透析医学学術集会プログラム・抄録集, pp119.
2. 「職場検診における試験紙法尿検査の評価」, 共同, (○有村恵美, 池田加奈子, 阿部正治, 堀内正久), 第31回日本糖尿病性腎症研究会, 於: 岡山コンベンションセンター, 2019年11月30日, 第31回日本糖尿病性腎症研究会プログラム・抄録集, pp62.

その他(研究助成等)

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究(C)日本学術振興会「鹿児島市CKD予防ネットワークを活用した糖尿病腎症・網膜症栄養関連因子の検討」, 2018年4月～2023年3月
1. 研究分担, 科学研究費基盤研究(C)日本学術振興会「脂肪酸代謝異常病態におけるビタミンB1の果たす役割について」, 2018年4月～2021年3月
2. 共同研究, 日本腎栄養代謝研究会臨床研究「慢性腎臓病患者のたんぱく質制限食が腎機能低下抑制に及ぼす効果についての多施設研究」, 2018年9月～

学会活動

日本病態栄養学会, 2002年6月～, 代議員(2019年4月～)
日本糖尿病・妊娠学会, 2004年12月～
日本腎臓学会, 2006年9月～
日本糖尿病学会, 2007年5月～
日本衛生学会, 2009年12月～
日本糖尿病性腎症研究会, 2009年12月～
日本CKDチーム医療研究会, 2010年10月～, 幹事(2011年10月～)
日本糖尿病合併症学会, 2012年9月～

日本産業衛生学会, 2014年12月～
日本腎栄養代謝研究会, 2015年7月～,
幹事(2017年7月～)

社会還元

1. 座長(ポスター発表)
「母子栄養」, 第22回日本病題栄養学会年次学術集会, 於: パシフィコ横浜, 2019年1月12日
2. 座長(ワークショップ)
「透析予防指導効果を考える」, 第31回日本糖尿病性腎症研究会, 於: 岡山コンベンションセンター, 2019年12月1日
3. 指導者
栄養食事指導, 於: 上ノ町・加治屋クリニック, 2019年1～12月
4. 講師
「減塩透析ランチ～食塩コントロール&血糖コントロール」, 鹿児島ブロック: 鹿児島市腎友会合同医療講演会, 於: ハートピアかごしま, 2019年2月10日
5. 講師
「栄養士の魅力」, 出張講義, 於: 鹿児島県立明桜館高等学校, 2019年7月2日
6. 講師
「Dream」, キャリアデザイン, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年7月24日
7. 講師
「栄養管理」, 2019年度栄養教諭ステップアップ研修(5年経験者研修), 於: 鹿児島県総合教育センター, 2019年8月7日
8. 講師
「栄養士の魅力」, 出張講義, 於: 鹿児島県立武岡台高等学校, 2019年9月21日
9. 講師
「食生活と健康寿命～少し考えながら食べる」, 伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2019年11月20日
10. 審査委員
第14回森のごちそうコンクール審査員(鹿児島県, 鹿児島県竹産産振興会連合会, 鹿児島県椎茸農業協同組合)(書類審査: 鹿児島県庁) 2019年10月4日, (実演審査: 今村ライセンスアカデミー) 11月9日
11. 学生引率・イベント協力
鹿児島市世界腎臓病デーイベント「世界腎臓デー in かごしま」, 於: 天文館通り, 2019年3月10日
12. イベント協力

第36回鹿児島市市民健康まつり，於：鹿児島アリーナ，2019年11月10日

社会活動

1. 2013年7月～，鹿児島市慢性腎疾患（CKD）予防ネットワーク事業オブザーバー
2. 2013年12月～，鹿児島市CKD手帳・世界腎臓デーワーキング委員

木下 朋美 助教

資料

1. 鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課「健康かごしま21（平成25年度～平成34年度）」中間評価報告書，共著，平成31年1月

学会発表

1. 「宮崎県の緑茶品種の官能評価による香り特性評価」，共同，（○木下朋美，岩松昂志，高嶋和彦），日本茶業学会2019年度研究発表会，静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ，2019年11月6日，日本茶業学会2019年度研究発表会要旨集 p. 55.
2. 「鹿児島県の家庭料理 副菜の特徴 副菜から見える地域性」，共同，（○森中房枝，木之下道子，木下朋美，山下三香子，他4名），日本調理科学会2019年度大会，中村学園大学，2019年8月26～8月27日，日本調理科学会2019年度大会研究発表要旨集 p. 102.

学会活動

日本家政学会，2000年4月～2003年3月，2005年4月～現在，会員
日本食品科学工学会，2000年4月～2003年3月，2013年4月～現在，会員
日本調理科学会，2002年4月～2003年3月，2013年9月～現在，会員
日本調理科学会2019年度大会実行委員会委員
日本茶業学会，2002年4月～現在，会員
鹿児島県茶業技術協会，2005年4月～現在，会員
日本官能評価学会，2006年4月～現在，会員
茶学術研究会，2006年4月～現在，会員

社会還元

1. 講師
「教えて！tea茶あー お茶入りドライカレー作り」，かごしま環境未来館主催学習講座，於：かごしま環境未来館，2019年5月18日

2. 講師
「鹿児島の茶と食育」，2019年度教員免許更新講習「食をめぐる文化的背景と鹿児島県の産業と食」講義3，於：鹿児島県立短期大学，2019年7月23日
3. 講師
「世界に広がる鹿児島茶の魅力」，食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラムCOC+公開講座2019，於：鹿児島大学，2019年8月10日
4. 講師
「食品の香りや色を作り出す酵素の働き」，出張講義，於：鹿児島県立国分高校，2019年8月21日
5. 講師
「食のスペシャリストになろう」，出張講義，於：鹿児島実業高校，2019年9月21日
6. 講師
「鹿児島の煎茶と抹茶の多様な世界」，伊敷公民館主催「シニア生き生き大学」第一回，2019年10月9日
7. 講師
「親子エコクッキング教室」，始良市衛生協会主催，於：かごしま環境未来館，2019年11月2日

社会活動

1. 2005年4月～現在，NPO現代喫茶人の会，理事
2. 2013年4月～現在，お茶料理研究会，世話人
3. 2016年10月～現在，鹿児島県茶業会議所，かごしま茶販路拡大対策等活動助成
4. 2017年6月～現在，かごしま黒茶研究会，会員
5. 2019年1月～現在，鹿児島市農業振興協議会，委員
6. 2019年9月，日本茶AWARD二次審査員
7. 2019年9月～現在，産学連携による「黒酢プロジェクト」への参加

多田 司 准教授

学術論文

1. 「官能評価と理化学検査数値から見るかごしま黒豚の肉質特性」，共著（○大小田勉，井之上弘樹，高橋宏敬，喜田克憲，多田司，井尻大地，大塚彰），『日本暖地畜産学会報』，第62巻，第1号，2019年3月，pp. 17-24.
2. 「レイヤー初生ヒナへの飼料給与開始の遅

延が適温および暑熱環境下での産卵成績と卵質に及ぼす影響」, 共著 (○興栢瑠香奈, 西木場菜央, 島元紗希, 上村凌, 中島一喜, 多田司, 大塚彰, 井尻大地), 『日本家禽学会誌』, 56巻, 第 J1号, 2019年4月, pp. J1-J6.

研究ノート

1. 「美味しいを推し量る理化学検査の検討 - 数値からみる「かごしま黒豚」の肉質特性 -」, 共著 (○大小田勉, 井之上弘樹, 高橋宏敬, 喜田克憲, 多田司, 井尻大地, 大塚彰), 『養豚の友』, 2019年6月号 (通巻第603号), 2019年6月, pp. 34-39.

学会発表

1. 「パークシャー種の異系統間における産肉能力と肉質の違い」, 共同 (○大小田勉, 井之上弘樹, 高橋宏敬, 喜田克憲, 多田司, 井尻大地, 大塚彰), 日本養豚学会110回大会, 於: 麻布大学, 2019年3月12日, 日本養豚学会110回大会講演要旨集, p. 14.

学会活動

日本栄養・食糧学会, 1996年4月〜, 正会員
日本生理学会, 1997年4月〜, 正会員
日本農芸化学会, 1998年4月〜, 正会員
日本畜産学会, 2003年3月〜, 正会員

社会還元

1. 講師
「食育の最新情報」, 2019年度教員免許更新講習「食育の最新情報, 食に関する指導ならびに衛生管理の実際」講義1, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年7月26日
2. 講師
「メリット, デメリットを知らう! 食品添加物」, 令和元年度かごしま環境未来館学習講座, 於: かごしま環境未来館, 2019年10月22日

中熊 美和 助教

学術論文

1. 「鹿児島市CKD啓発イベントに自主的に参加された方を対象とした食塩摂取状況アンケート及び食塩味覚感受性評価の報告」, 共著 (○有村恵美, 大山律子, 町田美由紀, 日高宏実, 阿部正治, 中熊美和, 堀内正久), 『日本栄養士会雑誌』, 62巻2号, 2019年2月, pp. 89-95.
2. 「A3ふき取り検査法を用いた爪ブラシ適正

管理の検討」, 共著 (○中熊美和, 大久保由梨, 有村千鶴, 尾込いずみ, 吉田百合奈, 有村恵美), 『食生活研究誌』, 39巻5号, 2019年7月, pp.34-42.

資料

1. 鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課「健康かごしま21 (平成25年度〜平成34年度)」中間評価報告書, 共著, 平成31年1月

学会発表

1. 「外来腹膜透析患者における血清ミネラル濃度と食事調査の関連」, 共同 (○中熊美和, 大久保由梨, 尾込いずみ, 吉田百合奈, 松本秀一朗, 益満美香, 東園美千代, 萩原隆二, 高田昌実, 有村恵美), 第25回日本腹膜透析医学学術集会プログラム・抄録集, pp.119.

学会活動

日本病態栄養学会, 2012〜
日本静脈経腸栄養学会, 2014〜
日本栄養経営実践協会, 2016〜2018
日本スポーツ栄養学会, 2016〜
日本給食経営管理学会, 2016〜
日本腹膜透析学会, 2018〜
日本透析医学会, 2019〜

社会還元

1. 講師
「健康チェック」, 鹿児島国際大学 地域連携企画, 於: 鹿児島国際大学, 2019年7月15日
2. 講師
「今後の給食管理と食育のための最新事情 講義2: 衛生管理」, 令和元年度栄養教諭更新講習, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年7月26日
3. 講師
「自分の食事を知らう」, 鹿児島国際大学 地域連携企画, 於: 鹿児島国際大学, 2019年7月15日
4. 講師
「食と健康について〜栄養学入門〜」, 鹿児島国際大学 地域連携企画, 於: 常潤高校, 2019年9月28日
5. 講師
「食生活と健康について」, 出張講義, 於: 志布志高等学校, 2019年10月3日
6. 講師
「鹿児島の野菜を知る」, 鹿児島国際大学 地域連携企画, 於: 鹿児島国際大学, 2019

年10月5日

7. 講師
「わかる！活かせる！スポーツ栄養セミナー」, 鹿児島県栄養士会 スポーツ栄養部会, 於: 武田上公民館, 2019年11月16日
8. 講師
「わかる！活かせる！スポーツ栄養セミナー」, 鹿児島県栄養士会 スポーツ栄養部会, 於: 喜入公民館, 2019年12月8日

社会活動

1. 2015年10月～, 玉昌会 高田病院 給食管理・栄養管理アドバイザー
2. 2016年4月～, 内閣府食品安全モニター
3. 2018年6月～, 鹿児島市食品衛生懇談会
4. 2019年6月8日「みんなで作ろう 夢・灯ろう!」, いづろ商店街振興組合青年部, 於: 名山小学校
5. 2019年6月22日「第2回 みんなで作ろう 夢・灯ろう!」, いづろ商店街振興組合青年部, 於: マルヤガーデンズ,
6. 2019年7月7日「第2回 みんなで作ろう 夢・灯ろう!」展示イベント, いづろ商店街振興組合青年部, 於: マルヤガーデンズ
7. 2019年11月28日, 弁当販売会, 於: 鹿児島国際大学 (鹿児島国際大学及び加世田常潤高校との共同出展)
8. 2019年12月1日, 第4回食育フェスタ in 鹿児島, 弁当販売「粘土で弁当作り」(鹿児島国際大学及び加世田常潤高校との共同出展) 於: 鹿児島市 天文館ベルク広場

町田 和恵 教授

社会還元

1. 講師
「食に関する指導の実際」, 教員免許更新講習 鹿児島大学, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年7月28日
2. 講師
「食育計画の作成と活用, 保育所における食事の提供ガイドライン」, 令和元年度食物アレルギー研修会, 鹿児島市保育園協会, 於: 鹿児島市町村自治会館, 2019年8月21日
3. 講師
「栄養報告書のための給食と栄養目標量の算出」, 始良・伊佐地域振興局管内給食施設連絡競技会第1回保育所(園)給食部会研修会, 於: 始良保健所, 2019年10月7日

社会活動

1. 2015年4月～, 公益財団法人かごしま環境未来財団評議員

山下 三香子 准教授

著書

1. 普及書日本調理科学会編『別冊うかたま 伝え継ぐ日本の家庭料理 汁もの』, 農文協, 共著 (日本調理科学会「伝え継ぐ日本の家庭料理」著作委員一同), 2019年12月, 128総頁, 担当: 鹿児島県茶節, p. 28.

資料

1. 鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課「健康かごしま21(平成25年度～平成34年度)」中間評価報告書, 共著, 平成31年1月

研究ノート

1. 「食生活改善推進員の活動からみたソーシャル・キャピタルの関係性 地域包括ケアシステムのボトムアップに貢献する食育リーダー」, 共著 (○山下三香子, 若林良和), 『日本食育学会』, 13巻3号, 2019年7月, pp. 211-221.

その他の出版物

1. 「Intake of coffee associated with decreased depressive symptoms among elderly Japanese women: a multi-center cross-sectional study」, 共著, (○Yasumi Kimura, Hitomi Suga, Satomi Kobayashi, Satoshi Sasaki, the Three-Generation Study of Women on Diets and Health Study Group), Journal of epidemiology, 2019 (in press)

学会発表

1. 「枕崎市における食生活の実態」, 共同 (○梅本末菜美・鶴丸杏莉, 山下三香子, 石崎由美子), 於: 枕崎市, 鹿児島農村医学研究会雑誌 第45回地方研究集会, 2019年1月27日, pp. 40-41.
2. 「福岡市内の地域活動に参加した高齢者の災害に対する意識と実態」, 共同 (○松藤泰代, 片山直美, 山下三香子, 上地加容子), 於: 福岡女子大学, 日本食育学会第7回学術大会学術報告要旨集, 2019年6月8～9日, p. 43.
3. 「学生の災害に対する意識と備蓄の実態」, 共同 (○上地加容子, 片山直美, 山下三香子, 松藤泰代), 於: 福岡女子大学, 日本食育学会第7回学術大会学術報告要旨集,

2019年6月8～9日 p. 63.

4. 「鹿児島県の家庭料理 副菜の特徴 副菜から見える地域性」, 共同 (○森中房枝, 木下朋美, 山下三香子他6名), 於: 中村学園大学, 日本調理科学2019年度大会研究発表要旨集, 2019年8月26～27日, p. 102.
5. 「枕崎市における食生活の実態」, 共同 (○山下三香子, 石崎由美子), 鹿児島農村医学研究会 第51回中央研究集会, 2019年8月22日, pp. 12-13.

その他 (研究協力, 研究助成等)

1. 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2017年～
2. 『在宅医療・介護ケアにおける管理栄養士・栄養士教育について』, 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 分担者, 2018年～

学会活動

日本社会福祉学会, 2007年4月～
日本栄養改善学会, 2008年4月～
日本保健福祉学会, 2008年4月～
鹿児島農村医学研究会, 2012年4月～
日本給食経営管理学会, 2012年9月～
日本調理科学会, 2013年8月～
日本食育学会, 2014年4月～
日本老年社会科学会, 2016年6月～
地域デザイン学会, 2017年 5月～

社会還元

1. 講師
「ヨーグルトとチーズの加工食品製造と衛生管理」, 鹿児島大学獣医学部交流授業, 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年2月22日
2. 講師
「ダイエットの罠」オープンキャンパス, 於: 鹿児島県立短期大学, 日本栄養士会「栄養ワンダー」同時開催, 2019年7月20日
3. TV 出演
「かわいれ」, KKB Jチャンネル, 2019年9月18日放映
4. 新聞掲載
「鶏飯ランチで優秀賞」, 南日本新聞11面, 2019年11月18日

社会活動

1. 2012年 4月～, 鹿児島農村医学研究会, 調査研究委員会幹事
2. 2019年 9月～, 産学連携による「黒酢プロジェクト」への参加
3. 2019年10月～, 日本給食経営管理学会, 評議委員

生活科学科

浅海 真弓 助教 学会発表

1. 「画像解析による色柄布の耐光堅ろう度の評価」, 共同 (○浅海真弓, 高橋杏実, 奥秋千寛, 森俊夫), 日本家政学会第71回大会, 於: 四国大学, 2019年5月26日, 日本家政学会第71回大会研究発表要旨集, p. 127.
2. 「果物の種から抽出した色素による染色」, 共同 (○森俊夫, 小山菜摘, 浅海真弓), 日本家政学会第71回大会, 於: 四国大学, 2019年5月26日, 日本家政学会第71回大会研究発表要旨集, p. 88.
3. 「画像解析による色柄布の変退色と汚染の評価」, 共同 (○浅海真弓, 小山菜摘, 森俊夫, 岩井美樹, 東竜典), 日本繊維製品消費科学会2019年年次大会, 於: 奈良女子大学, 2019年6月29日, 日本繊維製品消費科学会2019年年次大会・研究発表要旨, p. 64.

学会活動

日本衣服学会, 2003年6月～
日本繊維製品消費科学会, 2004年2月～
日本家政学会, 2004年6月～
日本色彩学会, 2005年7月～
日本家政学会被服材料科学部会幹事, 2017年5月～, 日本家政学会被服材料科学部会会計 (2017年5月～2019年5月)

社会還元

1. 講師
「衣料品の品質と表示」, 伊敷公民館講座「生き生きシニア大学」第4回, 於: 伊敷公民館, 2019年10月30日

井余田 秀美 教授

学術論文

1. Equilibrium thickness of foam films and adsorption of ions at surfaces: Water and aqueous solutions of sodium chloride, hydrochloric acid, and sodium hydroxide, Hidemi Iyota, Rumen Krastev, J. Colloid Interface Sci., in press.

学会活動

日本化学会, 1978年4月～

日本化学会コロイド部会, 1978年4月～
International Association of Colloid
and Interface Scientists, 1989年4月～

川島 茂 教授

その他の出版物

1. 寄稿「真下慶治記念美術館ができたときのこと」, 「日事連」日本建築士事務所協会連合会発行, 2019年3月号掲載, 2019年3月

学会活動

日本建築学会

日本建築家協会

社会還元

1. 学生作品展示支援, 展示計画
「ちいさないえのけんちく展／鹿児島県立短期大学」, 於: 6坪ギャラリー, 2018年12月21日～2019年1月31日
2. 学生作品展示支援, 展示計画協力
「生活科学専攻卒業研究作品展2019」(学内展), 於: 鹿児島県立短期大学, 2019年2月4日～12日
3. 講師
「自作について」, 東京都立蔵前工業高校講演会, 2019年2月28日
4. 学生作品展示支援, 展示計画協力
「鹿児島建築学生合同設計展 Kagoshima Design Project 2019 again」, 於: ドルフインポート, 2019年2月23日～24日
5. 学生作品展示支援, 展示計画協力
「生活科学専攻卒業研究作品展2018」, 於: マルヤガーデンズアートギャラリー, 2019年2月28日～3月6日,
6. 企画開催
「日本建築家協会鹿児島支部鹿児島県立短期大学生生活科学科生活科学専攻空間デザイン研究室卒業制作講評会」, 於: マルヤガーデンズアートギャラリー, 2019年3月5日
7. 企画開催
「ゆかで作る四帖半トレイ」, 第11回モノマチ(東京都台東区)ワークショップ, 2019年5月25日～26日
8. 学生作品展支援, 展示計画
「2019かごしま住まいと建築展」, 於: かごしま県民交流センター, 2019年10月18日～20日
9. 作品出展企画, 支援
「2018卒業制作」, JIA 建築展, 於: かごしま県民交流センター, 2019年10月18日～

20日,

10. コーディネーター
「和の住まい推進リーディングプロジェクト in 鹿児島」, 2019年10月19日
11. 委員
「鹿児島県信用保証協会新事務所建築に係る有識者委員会(同協会事務所建築基本設計公開型プロポーザルコンペ審査会)」, 2019年9月～11月
12. 講師
鹿児島大学工学部建築学科「建築設計Ⅱ」(設計課題: 鹿児島のランドマークとなり地方都市の活性化と知的生産性工場に寄与するワークプレイス), 2019年10月～11月
13. 学生作品展示支援, 展示計画
「ちいさないえのけんちく展／鹿児島県立短期大学」, 於: 6坪ギャラリー, 2019年12月24日～2020年1月30日

北 一浩 准教授

社会還元

講師

1. 「鹿児島発のデザイン」, 鹿児島県立短期大学奄美サテライト公開講座2019, 於: 与論町地域福祉センター, 2019年9月7日

社会活動

1. 2018年4月～, 鹿児島市クリエイティブ産業育成支援検討委員
2. 2019年11月～, 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会マスコットキャラクターデザイン選考委員

受賞

1. 2019かごしまの新特産品コンクール 工芸・生活用品部門 鹿児島市長賞, さつまこうちわ 南風扇 -HAESSEN-, 2019年10月8日, アートディレクション

収録作品

1. SHIROYAMA COLORS, 単著, 『研究年報』第50号(鹿児島県立短期大学地域研究所), 2019年3月, pp. 17-18

坂上 ちえ子 教授

学会活動

日本家政学会, 1990年～

日本色彩学会, 1992年～, 評議員, 関西支部役員

日本生理人類学会, 1992年～

日本教育心理学会, 2005年～

社会活動

1. 2017年2月～2019年2月，鹿児島県伝統工芸産業振興対策協議会委員
2. 2018年4月～2020年3月，鹿児島市屋外広告物審議委員会委員
3. 2018年5月～2020年4月，鹿児島県屋外広告物審議委員会委員

穴戸 克実 准教授

著書

1. 布野修司編『世界都市史事典』，昭和堂，共著，2019年11月，1056総頁，担当頁：西アジア / トルコ / サフランボル，「サフラン薫る隊商都市」 pp. 52-53.

学会発表

1. 「都市の街路と施設にみる公共空間の変容：エジプト，カイロ旧市街の事例から」，深見奈緒子 / 吉村武典 / 穴戸克実，日本中東学会第35回年次大会，於：秋田大学，2019年5月12日，日本中東学会第35回年次大会発表要旨集，pp. 8-10
2. 「カイロ旧市街における公共空間の変容：歴史的街路の階層性とアホワ（伝統的喫茶店）の立地に関する一考察」，単独，2019年度海外学術フォーラム，於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2019年7月6日

その他の出版物

1. こんな場所からこんな建築「デリーの中世イスラーム建築と都市開発」，建築雑誌2019年11月号，日本建築学会，p. 47.

データベース公開

1. 「東京大学東洋文化研究所デジタルアーカイブ：インド史跡調査」，データベースの追加公開（代表者：深見奈緒子），2019年10月，東京大学東洋文化研究所 HP/ データベース / インド史跡調査 / Medieval Muslim Monuments in Delhi: Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo.

その他（研究助成等）

1. 上智大学イスラーム研究センター現代中東地域研究「中東的な〈公共〉の多元的展開と社会倫理」社会経済学班，研究協力者

学会活動

1. 日本建築学会
2. 地中海学会
3. 日本中東学会
4. 日本トルコ交流協会

田中 真理 准教授

学術論文

1. 「2017年度鹿児島県立短期大学実施中学校教育実習の実態と教職意識の変容ならびに今後の指導改善について」，単著，『鹿児島県立短期大学地域研究所教育実践研究』，第1号，鹿児島県立短期大学地域研究所，2019年3月，pp. 139-155.

学会活動

- 日本老年行動科学会
日本心理学会
日本発達心理学会
日本心理臨床学会
日本老年行動科学会，2011年～，常任理事

商経学科

経済専攻

内田 昌廣 教授

学術論文

1. 「地域銀行による優先株式投資—中小企業金融の多様化の必要性和意義—」，単著，『鹿児島県立短期大学紀要（人文・社会科学編）』第70号，2019年12月，pp. 37-55

社会還元

1. 講師
「なぜ異次元の金融緩和は成功しないのか？」，伊敷公民館講座生き生きシニア大学，於：伊敷公民館，2019年10月16日

岡田 登 准教授

学術論文

1. 「野菜生産法人の設立とその存立要因—鹿児島県大崎町を事例に—」，単著，『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学編』，第70号，2019年12月，pp. 17-36.

学会発表

1. 「大都市近郊における野菜生産法人の設立とその存立形態—埼玉県深谷市を事例に—」，単独，立正地理学会研究発表大会（2019年度），於：立正大学，2019年6月1日
2. 「野菜生産法人の設立とその存立形態—埼玉県深谷市を事例に—」，単独，日本地理学会秋季学術大会（2019年度），於：新潟大学，2019年9月22日

社会還元

1. 講師

「大学院での学びを仕事につなげる—自治体職員から大学教員への転身—」, 立正大学地球環境科学研究科キャリアパス講演会, 於: 立正大学, 2019年7月10日

福田 忠弘 教授

著書

1. 佐藤幸男他編著, 『〈周縁〉からの平和学—アジアを見る新たな視座』(昭和堂, 2019年), 共著, 2019年10月, 329総頁, 担当箇所: 第10章福田忠弘「ベトナム戦争を巡る「北」と「南」の相克」, pp. 203-218.

学会発表

1. 福田忠弘「オランダ公文書館における日本人水産業者に冠する資料調査の経過報告」, 単独, 第13回水産史研究会, 於: 神奈川大学横浜キャンパス, 2019年9月28日

社会還元

1. 講師

「海の開拓者 原耕」, 坊津やまびこ会第50回町歩き記念講演, 2019年3月10日

2. 講師

「地域に眠る「宝」の活かし方」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 2019年6月8日

3. 講師

「海を耕した代議士・原耕の業績」, NP0 法人造士館講座, 鹿児島大学, 2019年8月24日

4. 講師

「創立110周年記念講演 鹿児島水産高等学校と海を耕した政治家原耕」, 鹿児島県立鹿児島水産高校, 2019年11月9日

5. 監修

「民謡魂: カツオ今昔物語」NHK, 2019年12月15日収録, 枕崎市市民文化館, 2020年2月2日全国放送

船津 潤 准教授

著書

1. 船津 潤著, 『途上国財政論 グローバリゼーションと財政の国際化』, 日本経済評論社, 単著, 2019年10月, 266総頁

社会還元

1. 講師

「地方財政について」, 出張講義, 於: 鹿児島県立志布志高等学校, 2019年10月3日

山口 祐司 講師

著書

1. 中瀬哲史・田口直樹編著『環境統合型生産システムと地域創生』, 文眞堂, 2019年3月, 280総頁, 担当相: 第14章 (○小田利広, 山口祐司), pp. 244-265.

社会還元

1. 講師「特効薬と経済学へくすりを生み出す社会の仕組みはどう変わってきたか〜」, 伊敷公民館講座 (第6回), 於: 伊敷公民館, 2019年11月13日

経営情報専攻

朝日 吉太郎 教授

学会活動

社会政策学会, 1985年〜 同学会査読専門委員2010〜

日本経営学会, 1993年〜

労務理論学会, 1993年〜

社会還元

1. 講師

「21正規における欧州グローバル化の分析課題」, シンポジウム『21世紀資本主義の20年』, 於: キャンパスプラザ京都, 2019年9月21日

2. 講師

「やっぱり変かな, 日本? - ドイツと日本の働き方の違いと, これからのを考える - 」, 鹿児島県立短期大学付属図書館『金曜講演会』, 於: 鹿児島県立短期大学付属図書館, 2019年11月1日

岡村 俊彦 教授

学術論文

1. 「ドローンとHMDを利用した高高度3D視聴システムの開発」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 自然科学編』第70号, 2019年12月 pp. 1-11.

学会活動

日本人間工学会, 1987年4月〜

日本生理心理学会, 1988年4月〜

日本心理学会, 1989年10月〜

社会還元

1. 講師

「エクセルを使った統計データの加工・分析のテクニック」,平成31年度地方統計職員業務研修,於:鹿児島県自治会館,2019年5月23日

2. 講師

「AIで、消えるビジネス 変わるビジネス 生まれるビジネス」,鹿児島県立短期大学公開講座,於:鹿児島県立短期大学,2019年5月25日

3. 講師

「インターネットの仕組みとセキュリティ対策」,中堅教諭等資質向上研修「仕事を効率化するパソコンのテクニック」,於:鹿児島県立短期大学,2019年7月24日

4. 講師

「AIとIoTとビッグデータの甘い三角関係」,秋のオープンキャンパス模擬講義,於:鹿児島県立短期大学,2019年11月17日

社会活動

1. 社会活動,2003年4月~,鹿児島産業保健総合支援センター 特別相談員
2. 社会活動,2007年4月~,鹿児島女子高等学校学外評議員
3. 社会活動,2013年3月~,鹿児島ラ・サール学園評議員

岡村 雄輝 准教授

資料

1. 「鹿児島県中小企業家同友会の会員企業を対象とした管理会計実践に関する実態調査」,共著(宗田健一,櫛部幸子,岡村雄輝),『商経論叢』(鹿児島県立短期大学商経学会)第70号,2019年10月,pp.53-88.

学会発表

1. 「水産養殖業を営む中小企業における簿記・会計実務の研究ー鹿児島県のA社を事例としてー」,共同(宗田健一,岡村雄輝),日本簿記学会第4回簿記研究コンファレンス,於:関西大学,2019年12月7日

学会活動

日本簿記学会,2018年8月~
日本記号学会,2017年4月~
日本会計研究学会,2013年9月~
日本会計史学会,2012年10月~
九州経済学会,2009年12月~

社会還元

1. 講師「経理マンの未来学」,鹿児島県立短期大学公開講座「これからビジネスはどう

なるのか」第8回,於:鹿児島県立短期大学,2019年7月13日

社会活動

1. 2019年9月~,鹿児島県公衆浴場入浴料金審議会委員

倉重 賢治 教授

学会発表

1. 「Selection of drive course using AHP - Application example of drive course in Kagoshima prefecture-」,単独,Proceedings of the 4th ICPM 2019, pp.25-26,2019年9月

学会活動

日本経営工学会,1993年~
日本機械学会,1994年~
日本生産管理学会,2003年~

社会還元

1. 講師
「これからの製造業について」,鹿児島県立短期大学公開講座,2019年7月6日
2. 講師
「ICT技術とプログラミングの基礎」,パワーアップ研修(中堅教諭等資質向上研修),2019年7月24日
3. 講師
「お見合い問題」,出張講義,於:大口高校,2019年10月25日
4. 講師
「混合組立ライン問題一部件の平準化からメイクスパン最小化までー」,日本経営工学会中国四国支部・日本生産管理学会研究部会「ビッグデータ時代の生産管理と物流管理」講演会,2019年12月14日

瀬口 毅士 准教授

著書

1. 佐久間信夫編著『現代国際経営要論』,創成社,共著,2019年1月,294総頁,担当箇所:第14章「異文化マネジメント」,pp.236-255.

学会活動

日本経営学会,2006年9月~
日本比較経営学会,2004年9月~
日本流通学会,2014年6月~
多国籍企業学会,2013年5月~
経営史学会,2014年10月~

社会還元

1. 講師「マーケティングと『ことば』」, 出張講義, 於: 玉龍高校, 2019年9月12日

竹中 啓之 准教授

著書

1. 小窪健治・竹中啓之著『就活実践ノウハウ集』, 鹿児島県立短期大学, COC+ 事業推進グループ 2019年3月, 43頁

社会活動

1. 2019年6月～2019年12月, 鹿児島地方最低賃金審議会 委員
2. 2019年6月～2019年12月, 鹿児島地方最低賃金審議会運営小委員会 委員長
3. 2019年6月～2019年12月, 鹿児島地方最低賃金審議会県最低賃金部会 部会長代理
4. 2019年6月～2019年12月, 鹿児島地方最低賃金審議会鹿児島県自動車(新車)小売業最低賃金専門部会 部会長
5. 2017年6月～2021年6月, 公益財団法人鹿児島住宅・建築総合センター評議会 評議委員
6. 2019年7月～2021年3月, 始良市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 委員

二部商経学科

宗田 健一 教授

著書

1. 上野清貴編著『簿記の理論学説と計算構造』中央経済社, 2019年9月5日(初版), 総293頁(宗田担当: 第13章「混合測定会計と簿記の計算構造」(単著, pp. 173-188))
2. 柴健次編著『異文化対応の会計課題 ―グローバルビジネスにおける日本企業の特徴―』同文館出版, 2019年7月10日(初版), 総248頁(宗田担当: 第7章「海外進出子会社の会計行動から見える異文化会計」(共著, pp. 165-200))
3. 水野一郎編著『メルコ学術振興財団研究叢書11 中小企業管理会計の理論と実践』中央経済社, 2019年2月1日(初版), 総336頁(担当: 第7章「中小企業の購買管理と生産管理会計 M社の事例」(単著, pp. 108-128))

調査報告

1. 「シンガポール進出企業の会計課題に関する調査報告」, 共著(○仲尾次洋子・宗田健一), 『名桜大学総合研究』第28号, 2019年3月, pp. 105-119.

学会年報原稿

1. 「簿記における計算構造の総合的研究」(簿記理論研究部会: 最終報告), 共著(○上野清貴, 宗田健一, 他21名), 『日本簿記学会年報』(日本簿記学会学会誌編集委員会編)第34号, 2019年8月, pp. 1-4.
2. 「中小企業会計における管理会計」(課題研究委員会 最終報告), 共著(○水野一郎, 宗田健一, 他9名), 『中小企業会計研究』(中小企業会計学会学会誌編集委員会編)第5号, 2019年8月, pp. 91-95.
3. 「VI 研究グループ報告(最終報告) グローバルビジネスの会計課題に関する研究」, 共著(○柴健次, 宗田健一, 他8名), 『国際会計研究学会 年報』(国際会計研究学会), 2018年度第 1・2 合併号(通号 43・44 合併号), 2019年7月, 187-195頁.

学会発表等

1. 「水産養殖業を営む中小企業における簿記・会計実務の研究―鹿児島県のA社を事例として―」, 共同(○宗田健一・岡村雄輝), 日本簿記学会第4回簿記研究コンファレンス, 於: 関西大学2019年12月7日
2. 「地方証券取引の役割と上場企業の特性に関する研究 ―福岡証券取引所と九州の地域企業を事例として―」, 共同(○宗田健一, 飛田努), 日本財務管理学会第49回秋季全国大会自由論題報告, 於: 青森大学, 2019年10月12日
3. 「簿記講義法に関する研究～ティーチング・ティップスの作成～」, 共同(○宗田健一(部会長), 他17名), 日本簿記学会第35回全国大会簿記教育研究部会報告<中間報告>, 於: 中央大学, 2019年8月24日

学会活動

日本会計研究学会, 2002年～現在, 会員
 国際会計研究学会, 2007年～現在, 会員
 日本簿記学会, 2008年～現在, 会員
 ―簿記理論研究部会, 2018年8月～2020年8月(予定), 「簿記講義法に関する研究～ティーチング・ティップスの作成～」(部会長)
 日本会計教育学会, 2009年～現在: 会員)

- －理事（事務局担当）（2017年～現在）
- 中小企業会計学会，2013年～現在，会員
- －研究（学会誌）担当幹事（2015年～現在）
- －広報（会報・HP）担当幹事（2016年～現在）
- －課題研究委員会，2019年9月～2021年9月（予定），「日本の中小企業会計の基礎概念に関する研究－文化的視座からのアプローチ」（委員）
- 日本経済会計学会（日本経営分析学会から名称変更），2015年～現在，会員
- 日本管理会計学会，2017年～現在，会員
- 日本財務管理学会，2019年～現在，会員

社会還元

1. 講師
「ゲームで学ぶ経営・会計の基礎」，出張講義，於：加世田高等学校，2019年7月26日
2. 講師
「知っているようで知らない鹿児島の老舗優良企業」，2019年度 公開講座 これからビジネスはどうなるのか ー情報化・グローバル化・地域活性化ー，於：鹿児島県立短期大学，2019年6月1日

社会活動

1. 2010年4月1日～現在，鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会委員，（2016年11月から委員長）
2. 2017年度～現在，龍谷大学校友会鹿児島支部 理事
3. 2018年度～現在，公益社団法人全国経理教育協会「中小企業 BANTO 認定試験」教材開発委員

その他－競争的資金（学外）

1. 総合科学研究チーム研究Ⅱ（福岡大学），研究課題名：「地方証券市場における上場企業の株価パフォーマンスと財務情報の関係性」，研究分担者，2018年度～2019年度（予定）
2. 公益財団法人メルコ学術振興財団研究助成，研究課題名：「定量・定性調査を用いた中小企業における管理会計実践の解明－鹿児島県内企業を対象として」（代表），助成金交付決定番号：研究2019006号（研究助成A），補助事業期間：2019年7月1日～2020年6月30日（予定）

その他－競争的資金（学内）

1. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「中小企

業における会計担当者の会計知識・技術に関する調査研究」（共同研究者），共同研究プロジェクト，2018年度～2021年度（予定），代表：岡村雄輝 准教授（鹿児島県立短期大学）

2. 鹿児島県立短期大学地域研究学会（種村特別会員研究寄付金），「簿記講義法に関する研究」（代表者），個人研究，2018年度～2019年度（予定）

田口 康明 教授

学術論文

1. 特別支援教育拡大の中での教職課程再課程認定－教員養成制度における「特別の支援を必要とする幼児，児童，生徒に対する理解」に関する科目設置の意味，公教育計画学会編『公教育計画研究 第10号』，2019年12月，pp. 82-94.

学会発表

1. 公開シンポジウム発表，公教育計画学会第10回大会公開シンポジウム，テーマ「新学習指導要領と推進体制を検証する－戦後レジームの解体から「国難」体制」，問題提起「変容する学習指導要領の意義－今次学習指導要領改定の意義とその失敗」，公教育計画学会編『公教育計画研究 第10号』，2019年12月，pp. 96-102.

野村 俊郎 教授

学術論文

1. 「ネオ TPS としての三本柱活動～グローバル適応で進化する TPS」，単著，鹿児島県立短期大学『研究年報』第50号，2019年3月，pp. 1-16.
2. 「トヨタのグローバル適応と労働～タイ STM における TPS の形式知化」，単著，鹿児島県立短期大学『商経論叢』第70号，2019年10月，pp. 1-37.

学会発表

1. 「トヨタのグローバル適応と労働～タイ STM における TPS の形式知化～」，単独，日本国際経済学会第9回春季大会報告，於：高知県立大学永国寺キャンパス，2019年6月15日

疋田京子 教授

学術論文

1. 「ジェンダー視点から見たインドネシア民

主化のパラドックス」, 単著, アジア法学会『アジア法研究2018』, 2019年7月31日, pp115-129.

社会活動

1. 2014年12月16日～現在, 鹿児島県事業認定審議会委員
2. 2019年7月9日～現在, 鹿児島県人権教育・啓発基本計画(2次改定)検討委員会委員

山本 敬生 准教授

判例評釈

1. 「禁錮以上の刑に処せられ, その執行を終わるまでの者の選挙権を制限する公職選挙法11条1項2号の合憲性」, 単著, 『自治研究』第95巻12号, 2019年12月, pp. 109-120.

学会活動

1. 日本公法学会, 2001年10月～現在

社会還元

1. 講師
財団法人鹿児島県市町村振興協会鹿児島県市町村研修センター・令和元年度特別研修講師(於:鹿児島県自治研修センター)「行政法」, 2019年12月2日～3日
2. 講師
財団法人鹿児島県市町村振興協会鹿児島県市町村研修センター・令和元年度特別研修講師(於:鹿児島県自治研修センター)「政策法務」, 2019年12月16日～17日
3. 客員論説委員
南日本新聞客員論説委員, 2019年1月～12月
「三反園県政を問う」1月28日
「レガシーとなる庁舎の建設を」2月25日
「受刑者がない選挙権」4月1日
「辺野古移設問題に思う」5月6日
「誰がために憲法9条はある」6月3日
「若者の低投票率を考える」7月8日
「若者の低投票率を再び考える」8月5日
「徴用工判決を検証する」9月2日
「日韓関係の悪化を憂う」10月7日
「『NO』と言える鹿児島」11月4日
「鹿児島から『令和維新』を」12月16日

社会活動

1. 2005年3月～, 鹿児島県地方自治研究所研究理事
2. 2013年4月～, 同研究所自治体創造プロジェクト主査

3. 2017年11月～, 自治研かごしま編集長
4. 2013年5月～, 日置市情報公開審査会委員(会長)
5. 2013年4月～, 日置市個人情報保護審査会委員(会長)
6. 2013年4月～, 曾於市情報公開審査会委員(会長)
7. 2013年4月～, 曾於市個人情報保護審査会委員(会長)
8. 2013年4月～, いちき串木野市情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
9. 2013年4月～, 志布志市情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
10. 2013年4月～, 伊佐市情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
11. 2013年4月～, 十島村情報公開審査会委員(会長)
12. 2013年4月～, 十島村個人情報保護審査委員会委員(会長)
13. 2013年4月～, さつま町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
14. 2013年4月～, 長島町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
15. 2013年4月～, 湧水町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
16. 2013年4月～, 大崎町情報公開審査会委員(会長)
17. 2013年4月～, 大崎町個人情報保護審査会委員(会長)
18. 2013年4月～, 東串良町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
19. 2013年4月～, 錦江町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
20. 2013年4月～, 南大隅町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
21. 2013年4月～, 肝付町情報公開審査会委員(会長)
22. 2013年4月～, 肝付町個人情報保護審査会委員(会長)
23. 2013年4月～, 中種子町情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
24. 2013年4月～, 南種子町情報公開審査会委員(会長)
25. 2013年4月～, 南種子町個人情報保護審査会委員(会長)
26. 2013年4月～, 宇檢村情報公開・個人情報保護審査会委員(会長)
27. 2013年4月～, 龍郷町情報公開・個人情報

- 保護審査会委員（会長）
28. 2013年4月～，喜界町情報公開審査会委員（会長）
 29. 2013年4月～，喜界町個人情報保護審査会委員（会長）
 30. 2013年4月～，知名町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 31. 2013年4月～，与論町情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 32. 2013年4月～，鹿児島県市町村総合事務組合情報公開審査会委員（会長）
 33. 2013年4月～，鹿児島県市町村総合事務組合個人情報保護審査会委員（会長）
 34. 2013年4月～，いちき串木野市・日置市衛生処理組合情報公開審査会委員（会長）
 35. 2013年4月～，いちき串木野市・日置市衛生処理組合個人情報保護審査会委員（会長）
 36. 2013年4月～，指宿南九州消防組合情報公開審査会委員（会長）
 37. 2013年4月～，指宿南九州消防組合個人情報保護審査会委員（会長）
 38. 2013年4月～，沖永良部与論地区広域事務組合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 39. 2013年4月～，曾於地区介護保険組合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 40. 2013年4月～，鹿児島県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 41. 2013年4月～，徳之島町情報公開審査会委員（会長）
 42. 2013年4月～，徳之島町個人情報保護審査会委員（会長）
 43. 2013年4月～，屋久島町情報公開審査会委員（会長）
 44. 2013年4月～，屋久島町個人情報保護審査会委員（会長）
 45. 2013年4月～，大和村公文書等開示審査会委員（会長）
 46. 2013年4月～，大和村個人情報保護審査会委員（会長）
 47. 2013年4月～，和泊町情報公開審査会委員（会長）
 48. 2013年4月～，和泊町個人情報保護審査会委員（会長）
 49. 2015年3月～，いちき串木野市自治基本条例推進審議会委員
 50. 2015年6月～，鹿児島県後期高齢者医療広域連合特定個人情報保護評価審査会委員
 51. 2017年4月～，鹿児島県市町村総合事務組合退職手当審査会委員
 52. 2017年2月～，霧島市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 53. 2017年2月～，霧島市個人情報保護審議会委員（会長）
 54. 2017年2月～，霧島市行政不服審査会委員（会長）
 55. 2017年4月～，始良市公平委員会（委員長）
 56. 2017年5月～，始良市行政不服審査会委員（会長）
 57. 2018年12月～，鹿児島県全国がん登録情報有識者会議委員
 58. 2019年5月，2019年度鹿児島県公平委員会連合会総会議長
- その他**
1. 南日本新聞コメント
12月18日，24日，30日
 2. KKB ニュース出演
3月7日，27日，28日，4月5日，7月9日，12月25日
 3. MBC 週刊1チャンネル出演
7月13日，20日

『KUROSHIO』第45巻

2020年3月31日 発行

編集・発行

鹿児島県立短期大学地域研究所

〒890-0005

鹿児島市下伊敷一丁目52番1号

TEL: 099-220-1111

FAX: 099-803-4473

印刷所 株式会社あすなろ印刷

〒890-0041

鹿児島市城西2-2-36

TEL: 099-214-3757

FAX: 099-214-3758
